

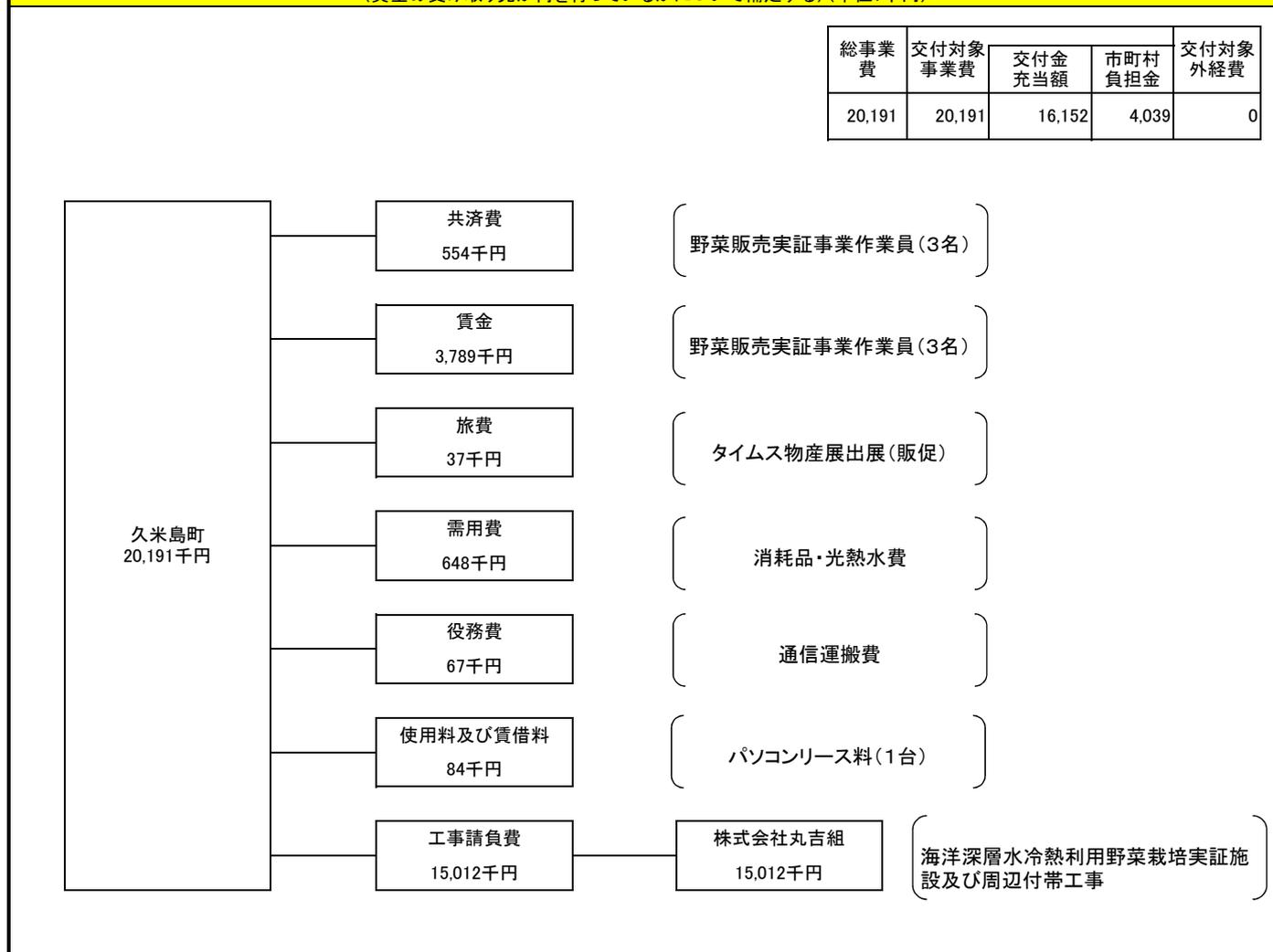
市町村名		久米島町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-① 海洋深層水冷熱利用野菜栽培実証事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-キ	
	担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~27年度		沖縄振興基本方針該当箇所	フロンティア型農林水産業の振興 Ⅲ-1-(6)	
事業内容	久米島の地域資源である海洋深層水の冷熱利用により、既に確立された夏場の野菜栽培技術の商用化に向けた実証実験を行う。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,700	-	46,047	-	28,561	15,850
		(b) 予算現額	8,700	-	46,047	-	29,878	23,146
		(c) 増減額(b-a)	0	-	0	-	1,317	7,296
		(d) 繰越額	0	8,700	-	46,047	-	-
	A. 計(b+d)		8,700	8,700	46,047	46,047	29,878	20,191
	B. 執行済額		0	2,549	0	45,415	29,878	20,191
	うち交付金充当額		0	2,549	0	36,332	23,903	16,152
	次年度繰越額		8,700	-	46,047	-	0	0
	執行率(%) (B/A)		0.0%	29.3%	0.0%	98.6%	100%	100%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・当初、人件費については野菜販売実証事業収益で補う予定であったが、収益見込額が大幅に減になったため補正にて増額した。 ・不用額については、工事費の入札残及び消耗品、旅費の執行減による。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	・実証施設の整備	目標	(実証施設の整備)	(実証施設の整備)	()	()		
		実績	冷熱利用野菜栽培ハウスの整備(3棟)	冷熱利用野菜栽培ハウスの整備(1棟の栽培ベッド設置)				
	・実証事業の実施	目標	(実証実験)	(実証実験)	()	()		
		実績	実証実験開始	実証実験開始				
達成状況説明	冷熱利用野菜栽培実証施設を整備し、実証実験を開始した。【ハウス3棟、設備3棟(設備1棟は28年度供用開始)】							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	10アール当たりの収穫量把握	目標	()	10a当たりの収穫量把握	(10a当たりの収穫量把握)	()	()	
		実績		なし	6.6a当たりの収穫量把握			
	生産コスト等の課題抽出	目標	()	(生産コスト等の課題抽出)	(生産コスト等の課題抽出)	()	()	
		実績		なし	生産コスト等の課題抽出			
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・冷熱利用野菜栽培ハウスの整備を実施し、実証実験を開始した。(ハウス3棟設備2棟) ・作業員2名体制で成果目標の達成に向けて取組を行った。 ・設備が2/3しか完成していないので6.6a当たりの収穫及び目標及び生産コストなどを把握した。 ・28年度以降において、3施設(10a)での実証実験を民間委託により取り組む。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうれん草栽培において、7月、8月にハウス内の室温が高いため、生育に影響が出たが葉野菜の端境期で単価は高い。葉ネギは順調に生育し、同栽培面積ではほうれん草の約2.5倍の収穫があり、単価も約2倍あり、採算ベースに乗せることができると思われる。 ・施設の完成により、供給基盤は確保され、販路についても地元物産公社との取引もできた。 ・今後、施設の運営委託先を公募、早急に実用化に向けて取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培システムを構築し、生産コストを検証することにより、実用化に繋げる。 ・農産物については、年間を通じて、一定の供給が期待できるものの連作障害等による安定供給には課題がある。 ・農業改良普及員等の指導を受けながら安定的な生産、供給に取り組む。 ・夏場の高室温を下げるための換気扇・送風機等の整備を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・冷熱利用野菜栽培ハウスでの実証実験で得られた、課題を検証し商用化に向け取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。 ○予算規模は海洋深層水に関連する産業を図る上で必要な設備であり、適正な規模であった。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-② 漁港施設機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~30年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産業の振興 III-1-(6)

事業内容	本町の基幹産業である水産業の振興を図るため、主要漁港に製氷施設及び漁船巻揚機(ウインチ)を設置する団体へ支援を行う。
------	--

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()
------	--

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	5,470	7,192	25,617		
	(b) 予算現額	6,078	14,392	25,785		
	(c) 増減額(b-a)	608	7,200	168		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)	6,078	14,392	25,785		
	B. 執行済額	5,953	12,807	25,785		
	うち交付金充当額	4,762	10,245	20,628		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	97.9%	89.0%	100.0%		
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果の早期発現を図るため、漁船巻揚機及び製氷施設整備の追加費用168千円増額補正した。 ・当初計画していた事業内容は全て実施したほか、活動目標、達成目標を鑑みて適正であったと考えられる。 					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
		製氷施設の整備	目標 ()	()	(製氷施設の整備)
	実績			製氷施設の整備	
漁船巻き上げ機の導入	目標 (1基)	(1基)	(2基)	()	
	実績	1基	1基	2基	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・儀間漁港及び仲里漁港泊地区に漁船巻揚機15トン型を各々1基導入したことにより、安全性の確保及び作業の効率化(労働負担の軽減)が図られた。 ・仲里漁港真泊地区の搬氷装置及び貯氷庫冷凍施設を整備したことにより、氷積み込みの円滑化及び安全性の確保並びに氷の耐久性及び鮮度保持の向上が図られた。 				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		製氷施設の整備率	目標 ()	(100%)	(100%)	()	()
			実績	100%	100%		
		巻き上げ機整備率(全体12基)	目標 ()	(33%)	(50%)	()	()
	実績	33%	50%				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・大型漁船は重機等をリースし漁船を陸揚げしている状況であったが、巻揚げ機を導入したことにより労働負担や経費負担が軽減された。 ・製氷施設の使い勝手の悪さ、機能低下によって漁業生産活動に影響を及ぼしている状況であったが、搬氷装置及び貯氷庫冷凍施設を整備したことにより、円滑で安全な氷の積み込み、氷の耐久性、鮮度保持が向上した。 						

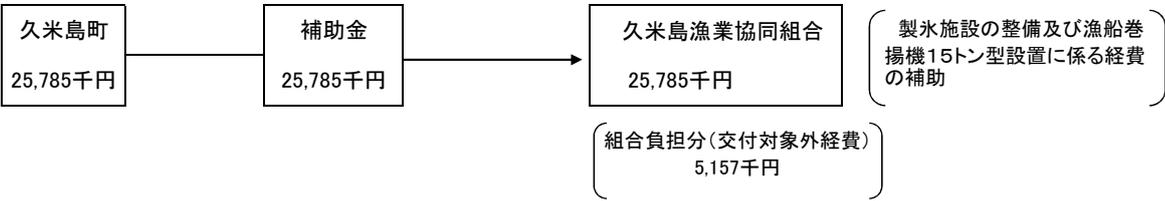
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 仲里漁港真泊地区の製氷施設整備により、円滑で安全な氷の積み込みが可能となり、水産業の振興を図る環境を整備することができた。 儀間漁港、仲里漁港泊地区に巻揚機を設置し、台風襲来時における大型船の陸揚げが可能となり、水産業の振興を図る環境を整備することができた。 導入、整備した施設の適正管理に努める必要がある。 引き続き巻揚機の再整備と漁港施設等の機能強化に取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な設備導入、再整備を行い、漁業者の利便性向上を図るとともに、大型漁船が増加傾向にあるため、漁民の労働負担や経費負担を軽減し安定経営を図る必要がある。 計画的な巻揚機の整備と、主要漁港の製氷施設の整備を図る必要がある。 今後は漁協において、給油施設、巻揚げ施設、製氷施設等の適正な管理、運用を行う。

今後の取り組み方針

・平成28年度は仲里漁港真泊地区に巻揚機1基を導入し、平成29年度以降は巻揚機導入を計画的に整備する必要がある。
 ・今後は、主要漁港の製氷施設の整備を計画的に行い、また、漁協において、製氷施設等の適正な管理、運用を行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
30,942	25,785	20,628	5,157	5,157



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である漁協は、漁業者により組織され、実績及び知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は漁業振興を図る上で必要な設備であり、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である漁協は総事業費の約2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名 久米島町

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④ 優良雌牛導入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)

事業内容 本町の繁殖雌牛の生産基盤の拡充・改良を促進し「くめじま牛」のブランド化を図り畜産業の振興につなげるため、優良遺伝繁殖雌牛の導入事業を行う団体へ支援を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	8,100	16,200			
	(b) 予算現額	8,100	25,237			
	(c) 増減額 (b-a)	0	9,037			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	8,100	25,237			
	B. 執行済額	7,947	25,237			
	うち交付金充当額	6,357	20,189			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	98.1%	100.0%			
	予算の状況の説明	・高齢化による離農や今後も子牛の価格が高騰していく傾向にあり、今後の事業費増が見込まれるため9,037千円を補正にて増額し、前倒しで導入頭数の増を図った。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
		優良雌牛導入	目標 (30頭)	(54頭)	()
	実績	30頭	68頭		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・平成27年度で優良繁殖雌牛の導入を行った。事業実施を前年度より早い時期に開始したため、余裕を持って事業執行することができた。当初54頭の導入予定であったが、各肉用牛セリ市場では子牛の価格が高騰し続けており、今後の事業費の増が予想されるため、前倒しで導入を行い68頭の導入となった。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)	
		優良雌牛導入率	目標 ()	(13%)	(35%)	()	(240頭)
			実績	13%	40%		
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	・平成27年度で優良繁殖雌牛の導入を行った。事業実施を前年度より早い時期に開始したため、余裕を持って事業執行することができ、円滑な雌牛の導入ができたことから、導入率が35%から40%への増となった。JAや関係機関と連携し、導入牛の飼養管理指導を行っている。導入牛から生まれた優良な子牛はセリに出品せず自家保留するよう農家へ呼びかけを行い、町内の飼養頭数の増加を推進している。						

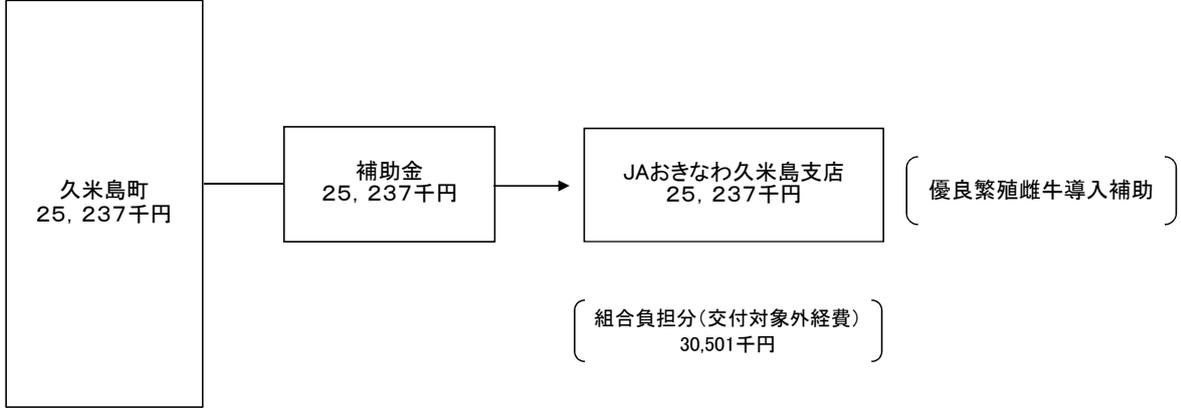
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 久米島町は畜産業も盛んであり、全国和牛共進会でも上位の成績を収める等、繁殖雌牛の飼養能力も評価されている。しかし、畜産農家の高齢化等により母牛頭数が減少傾向にある。 平成23年度に策定した「久米島町酪農・肉用牛生産近代化計画」の目標頭数を実現するため、今後も取り組みを強化していく必要がある。 導入した繁殖雌牛を基に、分娩間隔の短縮等、飼養管理を徹底することで、母牛の増頭を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も早期に事業を実施することで、余裕を持って事業執行に取り組んでいく。また、県内でも子牛価格が大幅に高騰してきていることから、県内の補助上限も検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

・事業を早い段階で執行するとともに、JA等関係機関と連携し農家へ営農指導を行うことで、優良繁殖雌牛を基にした母牛の増頭を促進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
55,738	25,237	20,189	5,048	30,501



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は沖縄県農業協同組合であり、妥当であったと考えている。 ○不用額は0円であり適正な規模であった。 ○受益者は沖縄県農業協同組合久米島支店であり、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

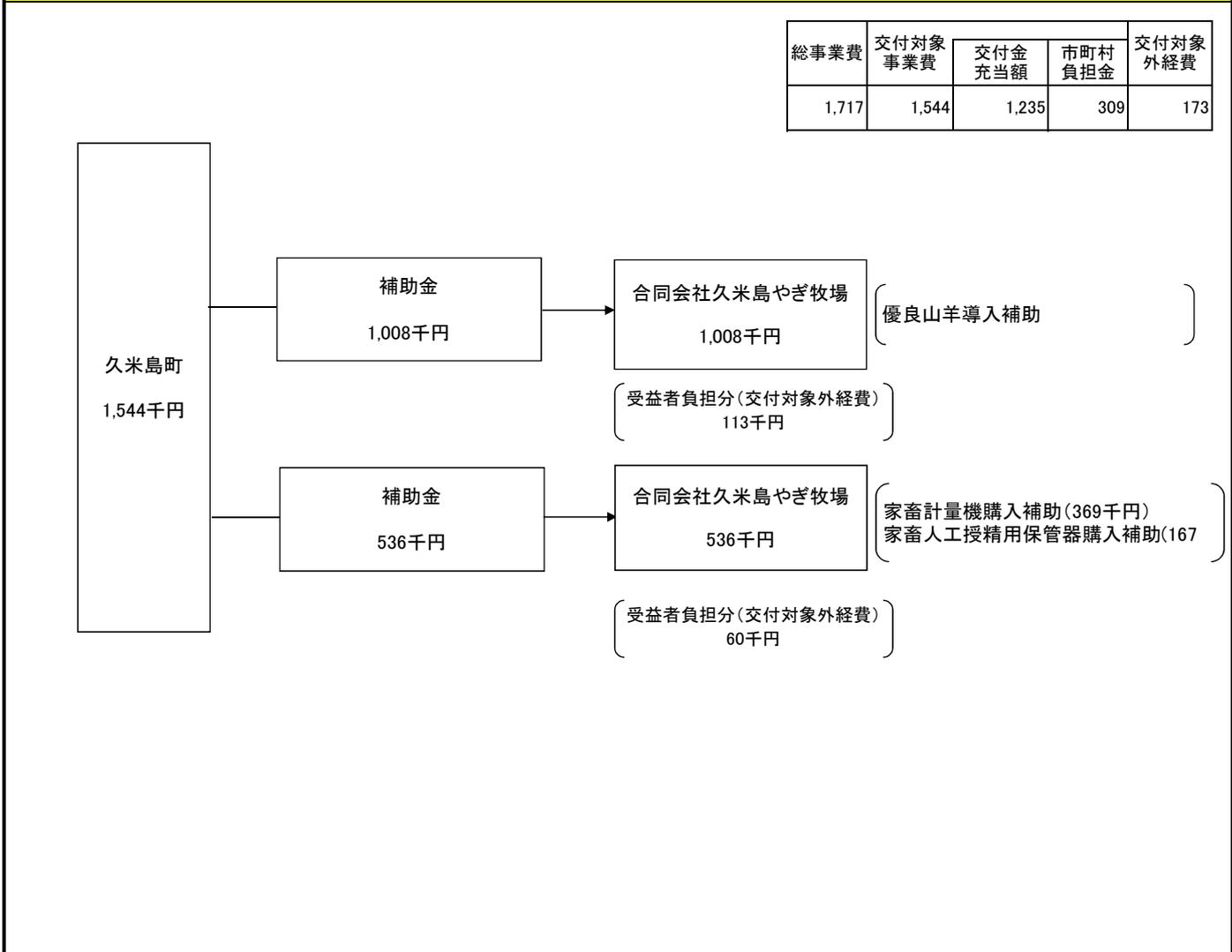
市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ くめじま山羊振興活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	本町の山羊食文化及び山羊肉の地産地消の推進を図るため、優良品種山羊の導入と普及、山羊牧場の建設、「くめじま山羊」のブランド化を確立し全町的な肉用山羊生産供給体制の整備を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	
	(a) 当初予算額	1,453	38,067	-	1,845		
	(b) 予算現額	1,453	50,521	-	1,845		
	(c) 増減額(b-a)	0	12,454	-	0		
	(d) 繰越額	-		26,742	0		
	A. 計(b+d)	1,453	47,885	26,742	1,845		
	B. 執行済額	1,192	23,779	26,742	1,544		
	うち交付金充当額	953	19,023	21,393	1,235		
	次年度繰越額	0	24,106	-	0		
	執行率(%) (B/A)	82.0%	49.7%	100.0%	83.7%		
予算の状況の説明	・沖縄県内で山羊の需要が高まる中、優良雌山羊を14頭導入することができた。不用額については、山羊購入経費、家畜計量機購入代金の減によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	優良品種導入	目標	(15頭)	()	()	()	
		実績	14頭				
	家畜計量機	目標	(1台)	()	()	()	
		実績	1台				
	人工授精用保管機	目標	(1台)	()	()	()	
実績		1台					
達成状況説明	・平成27年度の優良山羊の導入頭数は、当初15頭を予定していたが、県内の山羊の需要が高く山羊の価格が高騰したため、14頭(93%)の導入となった。家畜計量機1台、人工授精用保管器1台は当初の予定どおり導入できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	優良品種導入率	目標	()	(100%)	()	()	()
		実績		93%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・当初15頭の優良山羊導入を予定していたが、県内の山羊の需要が高く山羊の価格が高騰したため予定頭数を購入することができず14頭(導入率93%)となった。昨年度導入した40頭(雄5頭、雌35頭)とともに山羊舎にて飼育している。今後は、山羊の体調管理及び増体を図り、人工授精により子山羊の生産率向上を図る。H28年度は、雌山羊49頭より30頭(分娩率60%)の子山羊の生産を見込んでいる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・本町では山羊食文化及び山羊肉の地産地消の推進を図るため、山羊の振興に力を入れている。昨年度からの繰越にて完成した山羊舎にて、優良山羊を導入して飼養管理を行っている。山羊の状態確認や山羊の生産供給体制に必要な家畜計量機及び家畜人工授精用保管器の購入を行った。</p> <p>・導入した優良山羊を、山羊舎にて増頭し、生産した子山羊を各山羊農家へ払い下げることで、各農家における山羊飼養頭数の増加が図られる、全町的な肉用山羊生産供給体制を構築する。</p>	<p>・山羊の飼養管理を徹底するとともに、観察をしっかり行い、山羊の発情を見極める。発情した山羊への確に種付けを行うことで、子山羊の生産効率を向上させる。</p>

今後の取り組み方針

・山羊の飼養管理を徹底し、子山羊の生産に努め、町内山羊農家に普及を行い、山羊食文化及び山羊肉の地産地消の推進を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は合同会社くめじま山羊牧場で山羊の飼養管理等を考慮すると妥当である。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○不用額は301千円であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である合同会社くめじま山羊牧場は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。

市町村名 久米島町

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥ 農産物出荷貯蔵施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度 平成26~27年度	沖縄振興基本方針該当箇所 III-1-(6)

事業内容 本町の露地野菜の生産体制強化を図るためプレハブ冷蔵庫の設置を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	25,804	25,200			
	(b) 予算現額	3,600	24,300			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 22,204	▲ 900			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	3,600	24,300			
	B. 執行済額	3,523	24,300			
	うち交付金充当額	2,819	19,440			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	97.9%	100.0%			
予算の状況の説明	・900千円の減額は入札残によるものである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
		野菜用プレハブ冷蔵庫の整備	目標 (野菜用プレハブ冷蔵庫の整備)	()	()
	実績	冷蔵庫整備			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・平成26年度に冷蔵庫ユニット整備、平成27年度に野菜用プレハブ冷蔵庫を整備し、供用開始。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		出荷商品の品質保持体制の確立	目標 ()	(体制の確立)	(体制の確立)	()	()
			実績	体制の確立	体制の確立		
			目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	・平成28年2月末でプレハブ冷蔵庫の整備が完了し、平成28年3月から供用が開始され、今後の生産振興による数量の確保と取引先への安定販売運営を行っている。						

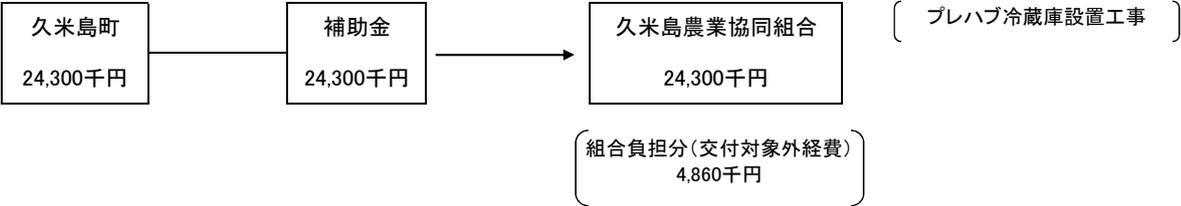
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・キュアリング対応型冷蔵庫の選定に不測の日数を要したため、着工が遅れた。 ・露地野菜は日持ちが悪いものが多く、島嶼環境ゆえに保管が課題となっており、今後の生産振興による数量の確保と取引先への安定販売を行うため保冷施設の整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年3月より供用開始し、販売先への定時、定量出荷の体制を整える。 ・キュアリング処理の技術確保及び商品の付加価値による産地ブランド力の強化。

今後の取り組み方針

・冷蔵庫導入により、数量の確保及び品質の安定を保ち生産振興を図る。
 ・キュアリング処理庫の導入により産地ブランド力を高め生産振興を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
29,160	24,300	19,440	4,860	4,860



資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先は公益性のある団体であり妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は農業振興を図る上で必要な設備であり、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農協は総事業費の2割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 久米島紬販売促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化		
	担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(4)	
事業内容	久米島紬の付加価値を高め販路拡大を図るため、消費者ニーズに即した商品開発や新商品の展示会やファッションショーの開催、問屋呉服店への販即訪問等を支援する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a) 当初予算額	2,407	2,250	10,220	4,194	
	(b) 予算現額	1,914	2,250	10,386	2,500		
	(c) 増減額(b-a)	▲ 493	0	166	▲ 1,694		
	(d) 繰越額	—	0	0	0		
	A. 計(b+d)	1,914	2,250	10,386	2,500		
	B. 執行済額	1,914	1,997	9,167	1,868		
	うち交付金充当額	1,531	1,597	7,334	1,494		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.8%	88.3%	74.7%		
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・予算減額1,694千円は、当初計画していた、後継者育成研修修了者の織り子定着のための、材料購入費一部援助を取り下げたための計画変更による補助金の減額である。 ・計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	島外での展示会開催数	目標	(4回)	(6回)	(6回)	(5回)	
		実績	5回	5回	9回	8回	
	商品開発試作品製作数	目標	()	(6反)	(5反)	(5点)	
		実績		5反	未実施	6点	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・島外での展示販売会を8回開催し、目標を上回ることができた。 ・H26年度に開催した東京展に会場した問屋から、新潟、京都での展示会出展の依頼があり、新たな販路開拓に繋がった。 ・H27年未実施だった反物の商品開発試作品製作を行い、目標数を上回った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(30年度)	
	反物売上額	目標	()	(7,000万円)	(7,000万円)	(7,700万円)	(7,800万円)
		実績		7,100万円	6,600万円		
	小物売上額	目標	()	(1,000万円)	(1,000万円)	(1,500万円)	(1,750万円)
		実績		1,000万円	1,200万円		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・売上目標、実績は、商品開発、物産展での売上を含めた、紬組合全体の売上目標、実績を計上している。 ・小物売上は、ウェア類に加え、バッグ、サイフ、名刺入などの小物も充実してきており目標値を上回ることができた。 ・反物売上が目標に届かなかったのは、近年、問屋の購買力が弱くなり、必要以上に買いためしない傾向があり、取引問屋からの取引量が減少していることが主な要因だと考えられる。 ・久米島紬東京展を単独開催(H26年度)したことにより、H27年度は展示会への出展依頼(京都・新潟・東京等)が増え、展示会開催数が目標数を上回った。 ・新商品開発した「久米島組織織」は、H28年度より販売を開始する。 						

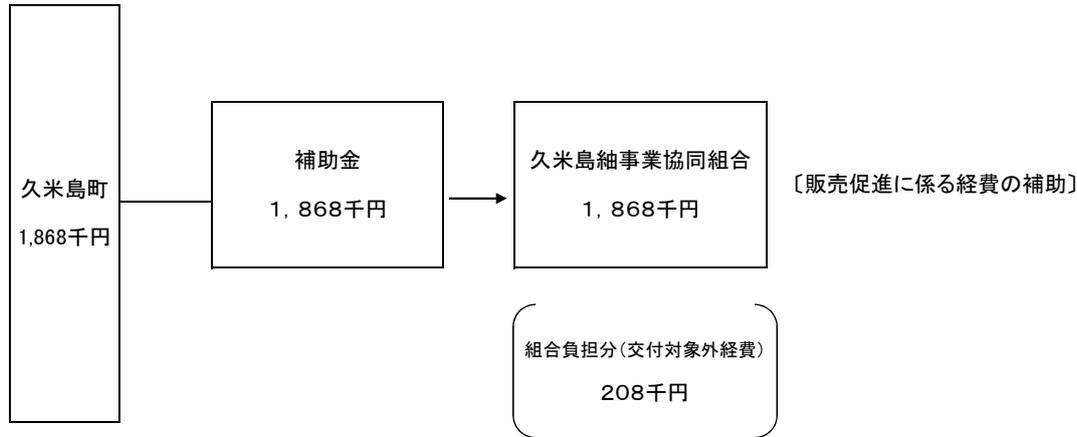
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・H26年度に東京展を単独開催したことにより、H27年度は京都や新潟での出展依頼があり、新たな販路拡大に繋がった。 ・久米島紬の織り技法は2枚綜統だが、80年ほど前から4枚綜統(組織織り)の花織も織っていたことから、6反(6種類)の組織織りを商品開発し、「久米島組織織」としてH28年度より販売する。 ・各展示会の説明員、講師が特定の紬従事者に限られているため、すべての紬従事者が対応できるように改善していく必要がある。 ・冬物ニット商品は、売上枚数は増えているが、今後も販売を強化していく必要がある。 ・展示販売会において、主催者がH25年度開発の「大地染め」をメインに取り扱ったことにより、問屋、消費者の評判が良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての紬従事者が販売促進、幅広い層の顧客獲得に繋がる接客技術の習得等、資質向上にむけての研修等を充実させていく必要がある。 ・他産地の展示会等を参考にしながら、内容を充実させ幅広い客層のニーズに対応できるような展示会開催(年10回)を目指す。 ・H25年度で商品開発した「大地染め」の全国公募展での入選をPRしながら、付加価値を高め販売を強化する。 ・後継者の育成に力を入れ、生産体制を強化し、地場産業としての発展を目指すとともに久米島紬従事者を確保する。 ・染め・織りの技法について、展示会や専門誌、ホームページ等で積極的に情報発信する。

今後の取り組み方針

- ・行政、商工会、観光協会等との連携を図り、首都圏での展示販売会開催に取り組む。
- ・H26.27年度で開発した商品を他の織物と差別化できるような、「久米島紬」特有の染めの技法、織り方の情報発信を行い販売を強化する。
- ・生産体制を強化するためにも後継者の育成に引き続き取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,076	1,868	1,494	374	208



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である紬組合は、紬製造従事者により組織され、実績及び知識等を助成した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は紬振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である紬組合は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

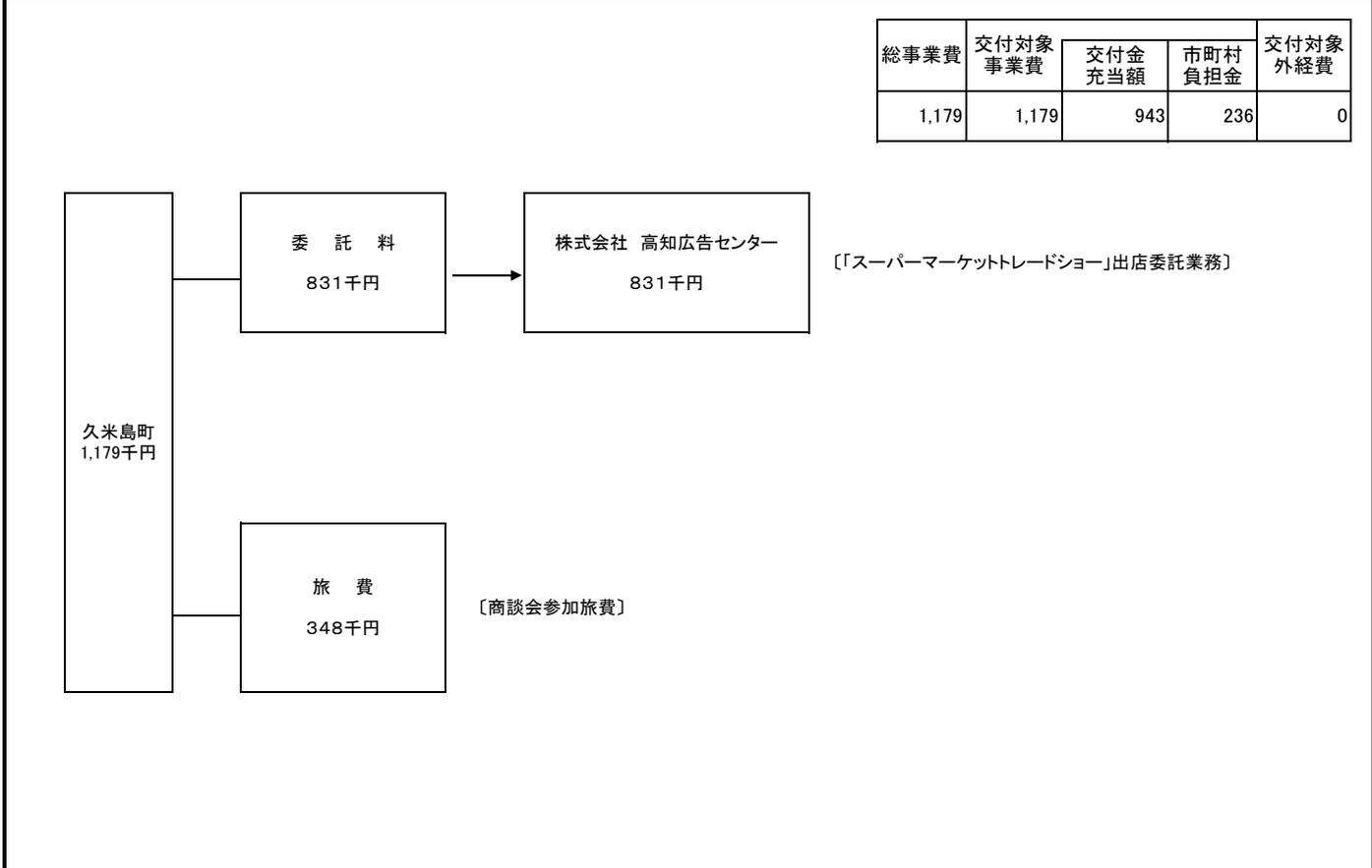
市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② 海洋深層水全国展開事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ		
	特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化			沖縄振興基本方針該当箇所	III-1-(4)		
担当部署名	商工観光課		事業実施(予定)年度		平成24~28年度		
事業内容	海洋深層水関連商品の販路拡大を図るため、首都圏において開催される商談会への参加及びPR用パンフレットの作成を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,273	2,081	1,624	1,709	
		(b) 予算現額	2,273	2,165	1,624	1,624	
		(c) 増減額 (b-a)	0	84	0	▲ 85	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)		2,273	2,165	1,624	1,624	
	B. 執行済額		2,273	2,165	1,440	1,179	
	うち交付金充当額		1,818	1,732	1,152	943	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	88.7%	72.6%	
予算の状況の説明		・予算減額85千円は、旅費の減額(職員が参加できなかったため)によるものである。 ・不用額445千円は、委託料の残(出展者が多く、予定していた規模のブースが確保できなかったため、小間数を減らした)によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	商談会への参加社数	目標	(商談会出展2ブース3日間)	(2社)	(2社)	()	
		実績	商談会出展2ブース3日間	2社	2社		
	パンフレットの配布数	目標	(パンフレット作成4,000部)	(500部)	(500部)	()	
		実績	パンフレット作成10,000部	500部	500部		
商談会面談者数	目標	()	(200名)	(200名)	()		
	実績		100名	80名			
達成状況説明	・2事業所が出展し、商談会、パンフレットの配布等を行った。 ・パンフレットは受け取っても、ブースに足を止めるバイヤーは少なく、面談(名刺交換)にはいならず、目標を下回った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(28年度)
	商談会面談者数	目標	()	(200人)	(200人)	()	(200人)
		実績		100人	80名		
	商談(取引)成立数	目標	()	(3件)	(3件)	()	(3件)
		実績		1件	2件		
	進捗状況説明	・他県の取水地と連携した首都圏の流通・小売業者等のバイヤーに対するPR・販路拡大に繋げることを目的に参加しているが、パンフレットを受け取っても、ブースを通過してしまうバイヤーが多く、面談社数は昨年度を下回り目標達成はできなかった。 ・バイヤーが必要とする時期に商品を提供できない、必要とする量が確保できないなどの理由から、商談成立までにはいならず目標に届かなかった。商談成立は2社(いずれも海ブドウ)であるが、クルマエビも含め引き続き契約に向け商談中(14社)である。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 他県の取水地(室戸・焼津・高知)と連携し首都圏(東京都)での大規模な商談会に参加した。 「沖縄・久米島」で海洋深層水が取水されている認知度はまだまだ低いのが現状である。 深層水を利活用した海ぶどう、クルマエビ等は、事前に商談会のホームページにて商品の告知(検索)ができること、また、ここ数年、全国的なメディアで取り上げられることが多くなったこと等により、出展回数を重ねる毎に認知度があがってきた。 商談成立数は昨年を上回ったが、パンフレットを受け取っても、ブースを通過してしまうバイヤーが多く、面談社数は昨年度を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> H25年度に作成した深層水パンフレットを活用し、ブースを訪れたバイヤーへの「久米島海洋深層水」のPRに取り組んだ。 今後も物産展等でパンフレット配布を行い、深層水を利活用した取り組み等(温度差発電・牡蠣養殖等)も併せてPRし、「久米島海洋深層水」の認知度とブランド力を高めていく努力が必要である。 深層水関連商品に特化したパンフレットではなく、海洋深層水利用計画を網羅したパンフレット製作に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

- 海洋深層水関連商品を取り扱う企業(島内・島外・県外)と連携し、各社のホームページや自社パンフレット等を活用し、情報発信を行っていく。
- 物産展などでのパンフレット配布に加え、深層水を利活用した取り組み、効能、可能性なども併せて紹介し認知度を高めていく。
- 海洋深層水を利活用した取組等を含めた、久米島海洋深層水の総合的なパンフレットの製作に取り組むPRする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○出展委託業者は海洋深層水フェアの幹事団体である高知県海洋深層水協議会が選定した業者に依頼しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は海洋深層水産業の振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ 久米島特産品販路開拓事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ウ 特産品開発やプロモーションなどマーケティング支援等の強化		
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-1-(4)		
事業内容	本町特産品の販路拡大及び若手後継者の育成を図るため、流通・商品開発のコーディネーターを配置する他、既存商品の改良や知名度向上のため県内・県外での開催される物産展への定期的な出店やビジネス戦略等の研修会等を実施する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,225	44,575	42,000	11,543	
		(b) 予算現額	2,225	44,575	36,338	20,103	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 5,662	8,560	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	2,225	44,575	36,338	20,103	
	B. 執行済額		2,225	37,600	35,096	19,212	
	うち交付金充当額		1,780	30,080	28,076	15,369	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	84.4%	96.6%	95.6%	
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> ・予算増額は、当初の計画に商品開発改良・コーディネーター構築を追加したことによるものである。 ・計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ブラッシュアップ参加事業所 9社	目標	()	()	()	(9社)	
		実績				7社	
	講習会・勉強会の開催	目標	()	()	(14回)	(10回)	
		実績			14回	9回	
	既存商品改良参加事業所 4社	目標	()	()	()	(4社)	
		実績				2社	
	物産展の開催又は参加	目標	(3回)	(団体への支援)	(5回)	(10回)	
		実績	3回	久米島商工会への支援	8回	7回	
アンテナショップ設置・コーディネーター配置	目標	()	()	()	(1名)		
	実績				1名		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・H26年度に開発した紅芋関連商品の改良(パッケージ・ラベル)を行い、販売を開始した。 ・沖縄久米島印は、販売を行いながらモニタリング調査の結果を踏まえ、アドバイザー指導のもとブラッシュアップを行なった。(容器の改良等) ・ブラッシュアップ事業所は、当初予定していた瓶詰め事業所が容器の変更によるコスト削減が厳しいとの判断で参加しなかったため目標を下回った。 ・物産展への参加については、特に県外の物産展への参加について、離島からの旅費の自己負担金が高く、出展料も県内開催に比べて高いことから参加を希望する事業所が少なく計画を下回った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(30年度)
	物産展等における販売額	目標	()	(2,500千円)	()		()
		実績			2,430千円		
	ビジネス戦略・マーケティング戦略勉強会	目標	()	(7社)	()		()
		実績			6社		
	既存商品改良数	目標	()	(4点)	()		()
		実績			2点		
	ブラッシュアップ商品数	目標	()	(4品)	()		()
		実績			3品		
	アンテナショップ販売額(久米島関連商品)	目標	()	(12,000千円)	()		()
実績				8,907千円			
【参考指標】 平成26年度開発商品売上げ額		目標	()	()	()	()	(12,000千円)
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・物産展における販売額は、当初予定していた県外での物産展の開催数が減ったため目標額に届かなかった。 ・ビジネス戦略勉強会は、当初参加を予定していた事業所が廃業となったため、1社減となり目標を達成できなかった。 ・沖縄久米島印のブラッシュアップは、容器を箱一袋にすることで、コストダウンを図った。参加事業所7社のうち3社(3品)が容器の変更を検討。他事業所については順次、変更を検討。 ・H26年度の久米島産紅芋を使用した新商品のパッケージ・ラベル等の改良を行い、販売を開始した。 ・ブラッシュアップ商品数が目標を下回ったのは、H26年度に開発した4品(紅芋ジェラート・紅芋ドリンク・紅芋せんべい・冷凍焼き芋)のうち、紅芋せんべいが販売に至らなかったためである。他3品はH26年度で販売できるまでに至ったが、せんべいは販売までにさらに改良を重ねる必要があり、引き続き取り組んでいたが、焼き上がりや食感等が目指す完成形に近づけることができず断念した。今後も自社で改良に取り組む販売を目指す。 ・アンテナショップにおける久米島関連商品の販売額は、東京アンテナショップへの卸販売で伸びをみせたが、那覇市内のアンテナショップでは、集客に苦戦し目標を達成できなかった。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップにコーディネーターを配置し、久米島特産品の販売拠点としているが、集客、売上が伸び悩んでいる。 ・物産展については、参加事業所ができるだけ赤字にならない催事を選定し、参加したため目標回数に届かなかった。 ・講習会・勉強会の開催については、目標回数を達成できなかったが、テーマを設定し時間を限定した講習会の開催を呼び掛けたことにより、受講者が増えた。 ・H25～27の3年間、勉強会に参加したことで商品の製造から販売までの経営学、衛生・品質管理等を基礎から学び直すことにより、事業所の意識改革ができた。 ・「久米島印」は、小売価格が高いため売上が伸びていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップへの人の流れを作るため、PR方法、旅行者と連携した集客方法等を検討し早急に取り組む必要がある。 ・物産展での販売額は、年々増えてきているので、さらに来場者を増やし販売促進に繋がるような物産展の主催、購買意欲をかきたてるブース装飾に取り組む必要がある。 ・引き続き研修会を開催し、事業所のさらなるスキルアップを図っていく。 ・島で生産・加工している商品を作り手が直接販売し、消費者からのニーズ、感想を商品作りに活かすことで、より魅力のある商品開発に取り組むことを目的に「直売市」を開催する。 ・「久米島印」は商品のパッケージ及び容量等を改良し、価格を落とすことができた。今後は贈答品としての販売を強化し、既存の商品との差別化を図り、販売向上に繋げる。

今後の取り組み方針

- ①久米島アンテナショップである離島マルシェを引き続き支援し、行政・観光協会と連携を取りながら、那覇市内における久米島特産品の販売を強化する。
- ②県内及び県外での物産展への参加を支援して各事業所の売上増加に繋げる。
- ③本年度で研修を受講した事業所が、企画・運営する「直売市」を月1回開催し、久米島の魅力ある特産品を町民へ知ってもらい、消費者からの発信で島外への情報発信、販路拡大を狙う。
- ④前年度までに衛生・品質管理講習会未受講の製造事業所に対し、加工食品製造スキルアップ研修会を開催し支援していく。
- ⑤「久米島印」については、単品で販売ではなく、セット販売や商品の特徴を明記したリーフレット添付など「贈答品」としての販売を強化し、売上増加に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,158	19,212	15,369	3,843	2,946



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は商工業事業者によって組織され、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は特産費販路開拓等に必要な経費であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である商工会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

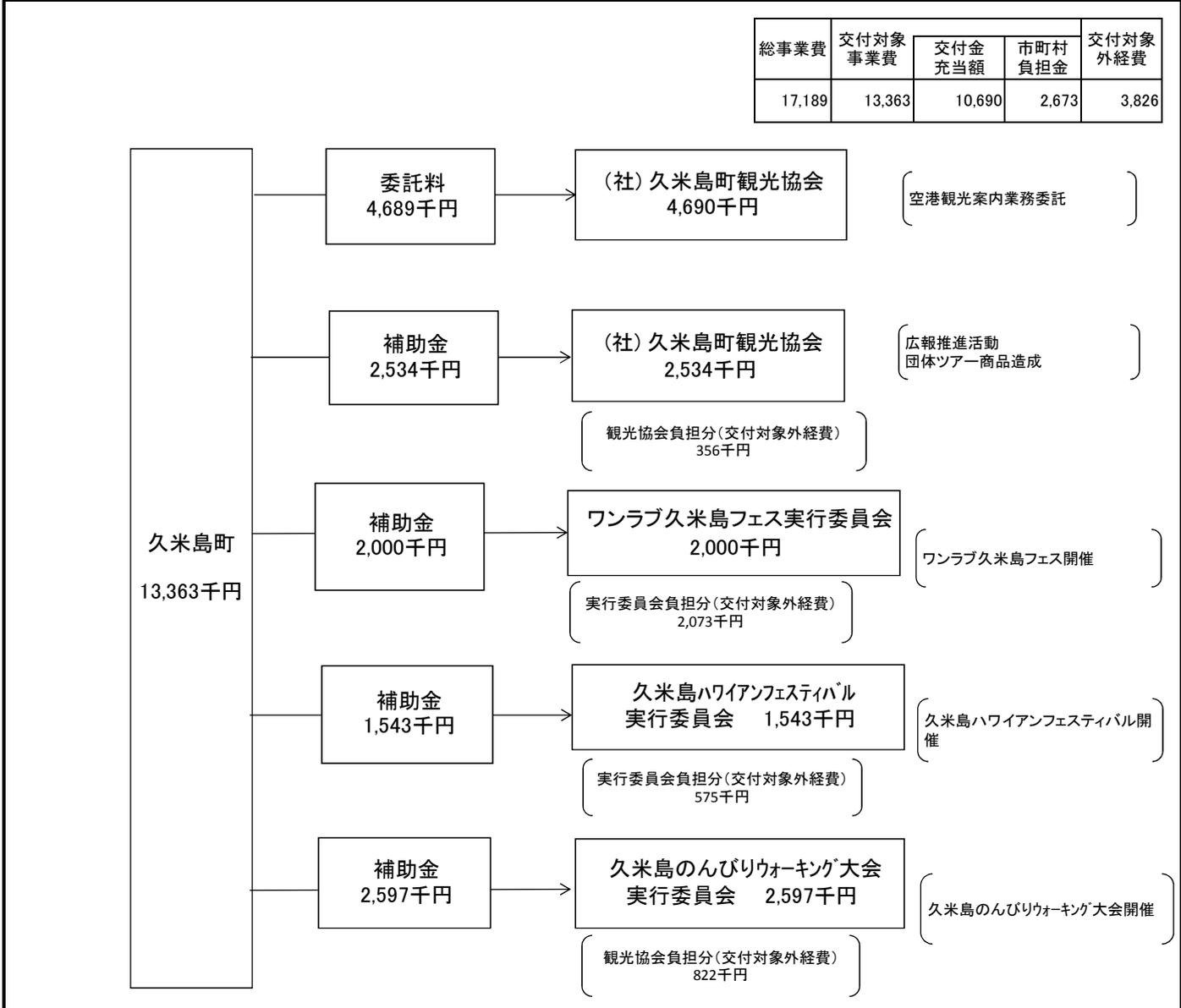
市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① 久米島観光誘客支援事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
	担当部署名	商工観光課	事業実施 (予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光リゾート産業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	久米島の良さを効果的に伝え観光客の誘客を促進するため、島の魅力を活かした旅行商品の企画、各種イベントの開催や広報活動、閑散期対策として団体ツアー商品造成等を実施し、観光産業の振興を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a) 当初予算額	11,268	32,826	17,184	6,034	
	(b) 予算現額	10,574	32,826	17,184	14,246		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 694	0	0	8,212		
	(d) 繰越額	-	-	-	0		
	A. 計 (b+d)	10,574	32,826	17,184	14,246		
	B. 執行済額	10,574	18,628	11,668	13,363		
	うち交付金充当額	8,457	14,902	9,334	10,690		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	56.7%	67.9%	93.8%		
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の委託事業に加えて、補助事業(イベント3件、広報推進事業、団体ツアー商品造成)を追加した。 ・計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成目標を鑑みて適正であったと考えられる。 						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	イベント開催	目標	(3件)	(4件)	(4件)	(3件)	
		実績	3件	4件	4件	3件	
	広報推進事業 広報活動	目標	(5件)	(7件)	(7件)	(7件)	
		実績	5件	5件	4件	4件	
	観光案内人配置	目標	()	()	()	(2名)	
		実績				2名	
	団体ツアー商品造成	目標	()	()	()	(40件)	
		実績				40件	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽やフラダンス、スポーツイベントの3件を実施し、全国から誘客した。 ・広報推進事業では、県内外での(観光物産展などの)イベント等にて、ポスター等を掲示し、観光案内やパンフレットの配布、観光リーダーやゆるキャラ“く～みん”の派遣等で久米島観光をPRし、久米島の知名度の向上を図った。当初7件の活動を予定していたが、予定していたイベントの中止や内容変更等により、目標達成に至らなかった。 ・団体旅行商品造成を旅行社に募り、閑散期の団体旅行を誘致した。 						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (30年度)	
		目標	()	(2,300名)	(1,000名)	(880名)	()
	実績		1,668名	880名	862名		
	広報推進事業 広報活動/久米島の認知度向上	目標	()	(7件)	(7件)	(7件)	()
		実績		5件	4件	4件	
	入域観光客数	目標	()	()	()	(99,000人)	()
実績					104,304人		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島への誘客を図るため広報活動や団体ツアー商品造成事業、イベント等を実施し、効果的な誘客展開を行った。 ・イベント開催事業では音楽やフラダンス、スポーツなどのイベントを開催し、多方面からの誘客を図るために広報活動等を行った。集客目標を達成したイベントもあったが、開催時期の変更により集客目標を達成出来なかったイベントもあり、目標達成に至らなかった。 ・バスツアーについては、閑散期の団体ツアーの商品造成した旅行会社へ助成し、全国から利用者があった。 ・本事業や観光協会等との連携により、観光誘客事業を展開し観光入域客数は目標を達成した。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・のんびりウォーク大会については、鹿児島県で毎年開催されているウォーキングイベントと同時開催となったため、県外からの参加が減少した。 ・広報推進事業では、県内外での(観光物産展などの)イベント等に久米島観光PRを実施、ゆるキャラ“く〜みん”なども派遣しながら、効果的な観光PRを実施しているが、予定していたが開催されなかったイベントや、イベント内容の変更により参加できなかったイベントがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの日程の確定については、参加者数に大きく関わってくるため、慎重に決定する事が重要である。 ・各種イベントについて、募集方法や広報について、最も効果的な手法を構築し参加者数の改善を図る。 ・広報推進事業については、県内外で実施されている様々な観光イベントから効率的かつ効果的なPRができるイベントを精査し参加する必要がある。

今後の取り組み方針

- ・各関係機関と連携を密に取り情報交換し、各種イベントの開催日や告知方法を精査して効果的な手法で集客できるよう取り組む。
- ・イベント参加者のニーズに応え魅力あるイベントにするため、アンケートをもとにイベント内容の改善を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 用・使 途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は観光事業者によって組織され、実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は観光誘客に必要な経費であり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である観光協会は総事業費の1割を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-② 久米島観光プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ		
担当部署名	商工観光課		事業実施(予定)年度	平成25~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘致活動の展開 Ⅲ-1-(1)
事業内容	本町の観光誘客の課題である知名度不足の解消を図るため、大手IT企業を活用した観光プロモーションを実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,705	26,244			
		(b) 予算現額	12,705	23,760			
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 2,484			
		(d) 繰越額	—	0			
		A. 計(b+d)	12,705	23,760			
	B. 執行済額		12,600	23,112			
	うち交付金充当額		10,080	18,489			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.2%	97.3%			
予算の状況の説明		・予算額2,484千円の減額は、必要経費を見直したことによる委託料の減である ・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	27年度	28年度	29年度	
	国内大手の旅行及び宿泊予約サイトを活用した誘客促進	目標	(旅行・宿泊予約サイトの活用)	(旅行・宿泊予約サイトの活用)	()	()	
		実績	旅行・宿泊予約サイトの活用(1社)	旅行・宿泊予約サイトの活用(2件)			
	観光PR映像を活用した誘客促進	目標	()	(観光PR映像発信)	()	()	
実績			観光PR映像発信				
達成状況説明	・大手宿泊予約WEBサイト「楽天トラベル」「じゃらんネット」において久米島の魅力を発信するプロモーションを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	WEBプロモーション件数	目標	()	(2社)	()	()	()
		実績		2社			
	テレビ番組県外放映	目標	()	(1件)		()	()
		実績		2件			
進捗状況説明	・大手宿泊予約WEBサイト2社「楽天トラベル」「じゃらんネット」において久米島の魅力を発信する特集ページを製作し情報発信した。 ・久米島町及び久米島町観光協会ホームページにリンクを貼り、プロモーション効果を高めることができた。 ・WEBプロモーションと連動したテレビ番組放映では、BSと民放(TBS)で久米島情報を発信した。						

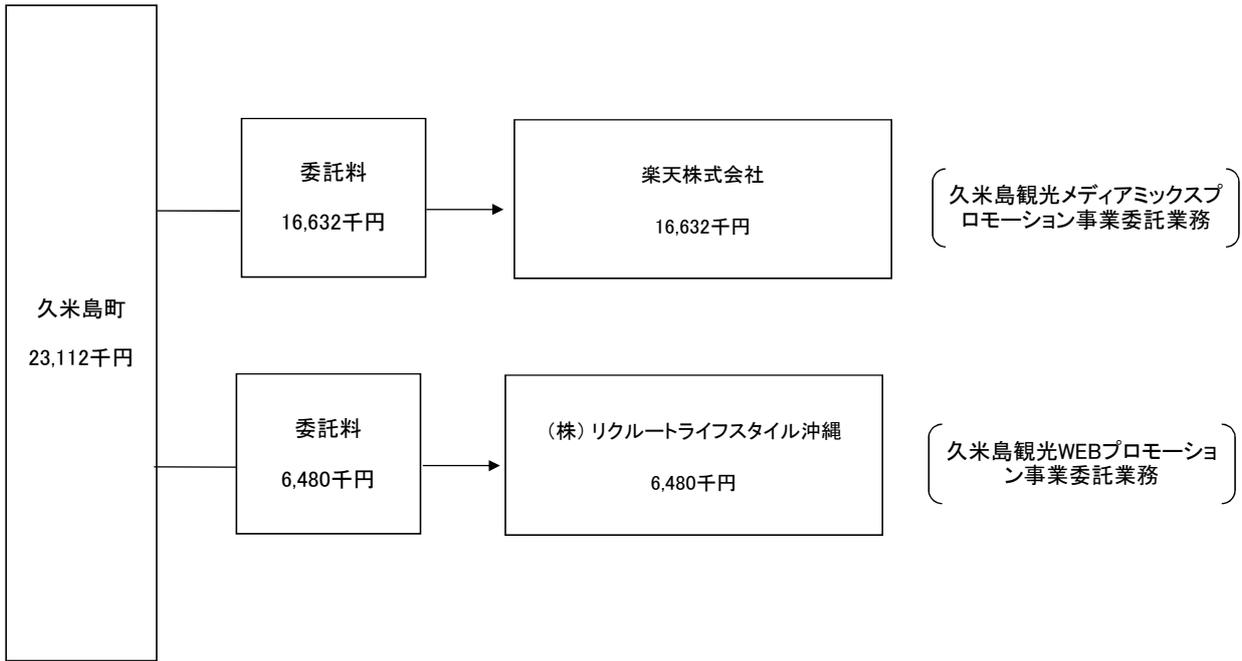
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・国内旅行市場ではオンライン旅行販売額が年々向上しているため、宿泊予約WEBサイトを活用したWEBプロモーションを行っている。今回は、メディアミックスとしてテレビ放映と連動したプロモーションを行った。テレビ放映は、テレビ製作会社等との調整に時間を要した。</p>	<p>・久米島観光誘客に効果的なテレビ番組を選定し、テレビ製作会社との調整をスムーズに行えるように改善を図る。</p>

今後の取り組み方針

・メディアを活用し魅力的なプロモーションを行い、久米島の観光PRを効果的に行うため、旅行WEBサイト2社を活用し、テレビ放映と連動したプロモーションを行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
23,112	23,112	18,489	4,623	0



資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者はプロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は観光振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③ 体験交流型観光商品開発販売促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	本町の観光入域客数を増加させ観光産業の振興を図るため、修学旅行受入促進のための旅行商品の開発、販売促進事業を実施する団体へ支援を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,689	18,963			
		(b) 予算現額	8,689	18,963			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)		8,689	18,963			
	B. 執行済額		7,697	15,217			
	うち交付金充当額		6,158	12,173			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		88.6%	80.2%			
予算の状況の説明		・予算減額3,746千円は、当初予定していた県内外への営業活動ほか修学旅行団体への助成金など事業実績の減少による委託料の減額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	民泊の営業許可の取得件数	目標	(30件)	(10件)	()	()	
		実績	21件	7件			
	体験プログラム・開発・改良件数	目標	(20件)	(10件)	()	()	
		実績	22件	10件			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・民泊の営業に必要な簡易宿泊の手続きは、7件の登録が完了したが目標を達成できなかった。民泊受入委希望の相談があったものの、客室が規定の広さが足りず、登録に至らない場合もあった。 ・体験プログラムは10件の開発・改良を行い、目標を達成することができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	修学旅行入域者数	目標	()	(400人)	(800人)	()	()
		実績		598人	668人		
	体験プログラム利用者数	目標	()	(1,200人)	(1,200人)	()	()
		実績		1,283人	1,287人		
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・営業訪問や資料送付により、県内小学校2校、県外高等学校6校の合計8校で668人が修学旅行を実施し、昨年より77名伸びたものの目標は達成できなかった。 ・体験プログラムは修学旅行生をはじめ、個人のお客様への販売も旅行会社等を通して積極的に行った結果、目標を達成することができた。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度は3回の民泊受入があり、特に問題は発生しなかった。 修学旅行を誘致する上で、魅力的な体験プログラムを提供できるように、体験プログラムの開発・改良への取り組みが必要。 修学旅行誘致では、那覇-久米島間の飛行機の移送能力の低さが足かせとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度は受入民家の資質向上に向けて研修等を開催した。引き続き研修を行い、更なる資質向上が必要である。 民泊受入の経験を積むために、モニターツアーや大型イベントの際に、一般のお客様への民泊提供についても、島内宿泊業者の理解を得ながら実施していく必要がある。 那覇-久米島間の飛行機のキャバが小さいため、大型校ではなく小規模校へアプローチを行っていく必要がある。 体験プログラムの利用者の満足度等を調査し、既存プログラムの改善や新規プログラムの開発を行う必要がある。

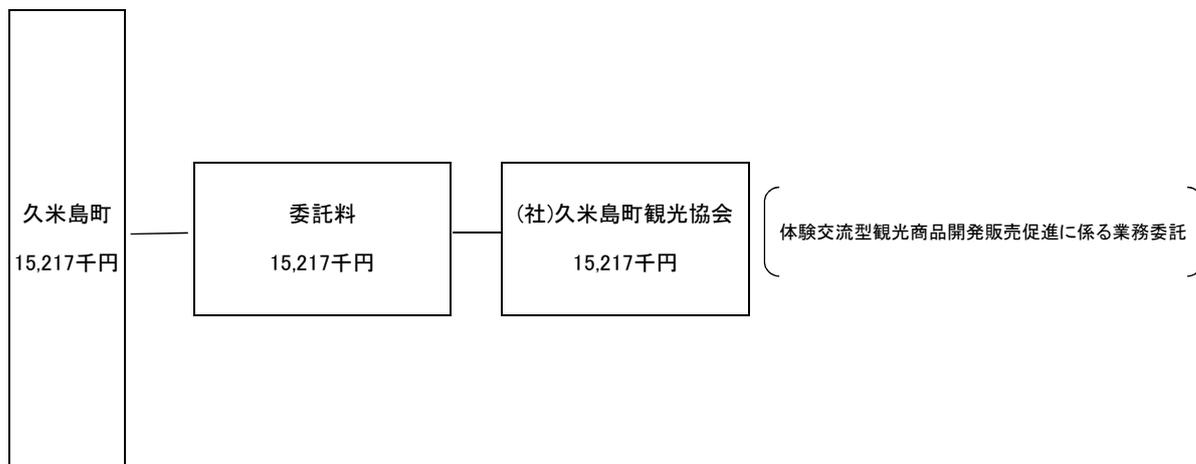
今後の取り組み方針

- 民泊では、保護者・先生から子どもを預かるということから、危機管理に重点をおき、受入民家の資質向上のため、引き続き研修を実施する。
- 修学旅行生や一般の観光客に、印象に残るような体験プログラムを実施するために、他地域にはない観光資源(海洋深層水・久米島紬・エフエムくめじま)を活用したプログラムの開発・改良を行う。(島内産業経済団体(商工会・農協・漁業)との連携を図り、修学旅行生に他地域ではできないキャリア教育的な体験メニューの開発を行う。)
- 行政と観光協会が一体となり、航空機の移送について改善されるように取り組む。

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
15,217	15,217	12,173	3,044	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は特殊な業務内容であったため随意契約であったが、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は、事業費見直しによる減であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④ スポーツ合宿誘致事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-イ		
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	観光客が減少する冬季の誘客促進を図るため、スポーツ合宿の誘致活動を実施し、スポーツコンベンションの推進を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,500	1,704			
		(b) 予算現額	3,152	1,704			
		(c) 増減額 (b-a)	1,652	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	3,152	1,704			
	B. 執行済額		3,152	240			
	うち交付金充当額		2,522	191			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	14.1%			
予算の状況の説明		久米島の駅伝合宿環境を見ていただくための招聘として4チーム(各2名)を見込んでいたが、日程の都合により1チームの実績となり1,464千円の減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	陸上合宿誘致	目標	(陸上合宿誘致)	(陸上合宿誘致)	()	()	
		実績	陸上合宿誘致	陸上合宿誘致			
	パークゴルフ大会誘致	目標	(パークゴルフ大会誘致)	(パークゴルフ大会誘致)	()	()	
		実績	パークゴルフ大会誘致	パークゴルフ大会誘致			
達成状況説明	陸上合宿誘致活動として、実業団陸上部等の監督やコーチ等が集まる場(全国高等学校駅伝競走大会/12月/京都)へ参加し、監督やコーチへ直接アプローチし誘致活動・招聘事業の告知を行った。 パークゴルフについては、久米島町観光協会と連携し、3月に九州のパークゴルフ場に訪問し、大会やツアー開催について誘致活動を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	陸上合宿	目標	()	(4件)	(4件)	()	()
		実績		4件	4件		
	パークゴルフ大会	目標	()	(1件 島外100人)	(1件 島外100人)	()	()
		実績		2件 島外131人	2件 島外180名		
	進捗状況説明	陸上合宿は、継続3件、新規1件の合計4件となった。 パークゴルフ大会は、2件開催し、前年度より約50名増であった。					

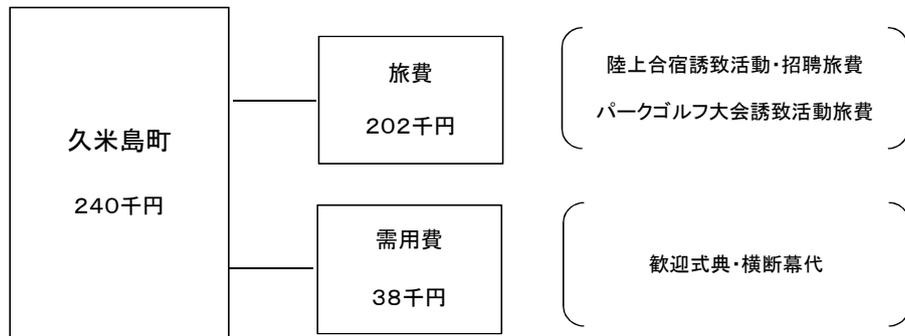
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・招聘事業のアプローチを効果的に行おうと実業団陸上部等の監督やコーチが集まる場で告知活動を行ったが、限られた時間の中では詳しい事業説明をじっくり行う事ができなかった。 ・駅伝合宿は12月～2月が沖縄での駅伝シーズンになるが、久米島では2月にプロ野球のキャンプを受入しており、希望する日に宿泊を確保できず、受け入れできないことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・久米島の合宿環境が分かるパンフレットを作成することで、招聘事業を効果的にアプローチすることが見込まれる。 ・陸上合宿の日程を事前に調整し、プロ野球キャンプと日程が重ならないように調整が必要である。

今後の取り組み方針

・駅伝合宿場としての久米島の良い環境をアピールすることができるパンフレット作成を行う。
 ・島内視察に関して、スポーツコンベンション推進協議会の組織を最大限に活用し、宿泊施設の紹介やトレーニング施設の案内をスムーズに行えるよう各関係機関との連携を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
240	240	191	49	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、実績を勘案した上で選定しており妥当であったと考える。 ○予算規模は観光振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

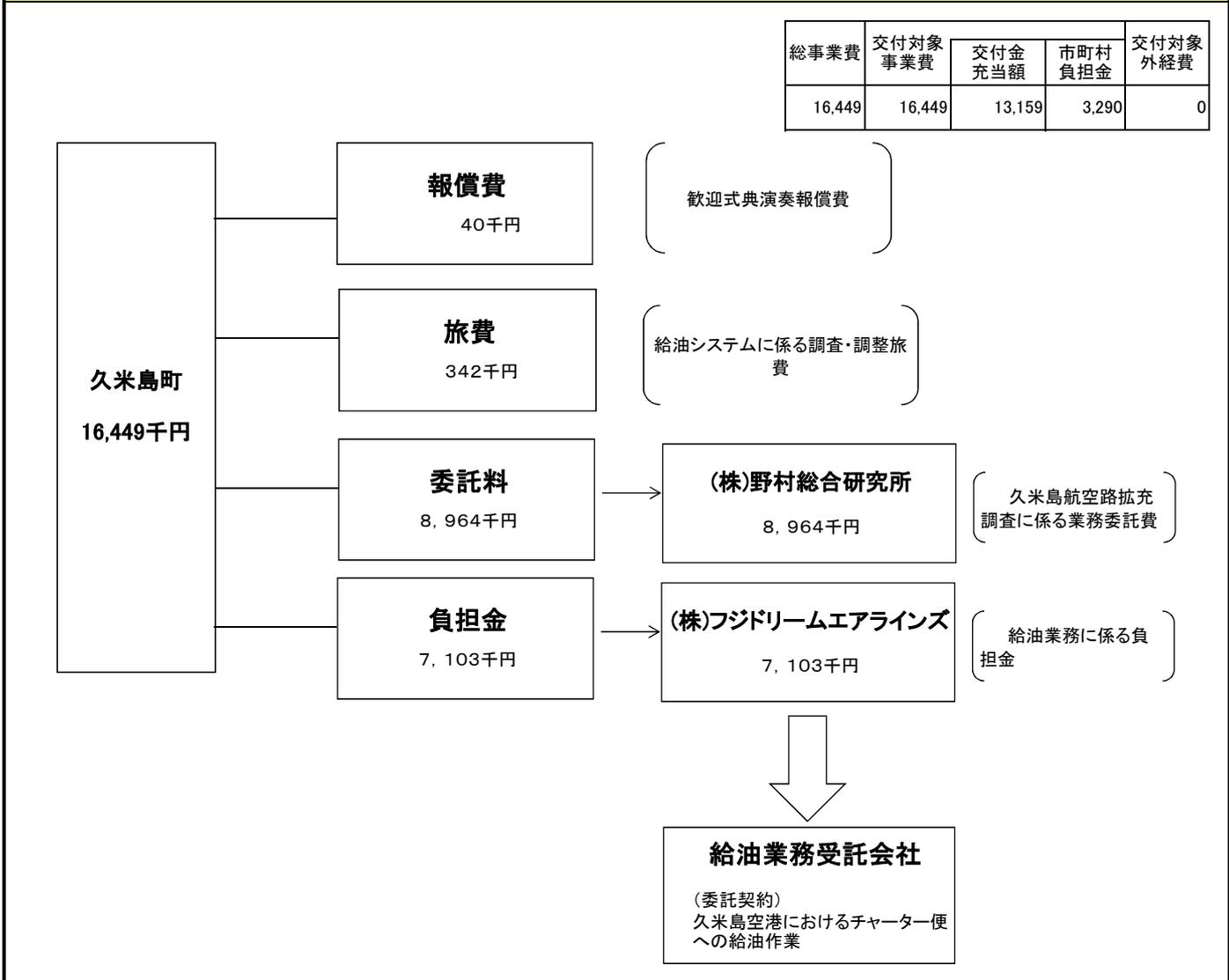
市町村名	久米島町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤ 航空路線拡充対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-(ウ)		
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	伸び悩む観光入域誘客の増加に繋げるため、チャーター便や新規航空会社の誘致を行い、航空路の充実・強化を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,683	18,064			
		(b) 予算現額	8,596	16,986			
		(c) 増減額 (b-a)	4,913	▲ 1,078			
		(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)		8,596	16,986			
	B. 執行済額		8,596	16,449			
	うち交付金充当額		6,877	13,159			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	96.8%			
予算の状況の説明		航空機材の機材点検により機材の確保ができず運航が出来なかった分の減額となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	チャーター便実現の為、久米島空港での給油を行う	目標	(給油体制の整備)	(給油体制の整備)	()	()	
		実績	給油体制の整備	給油体制の整備			
	新規航空会社の誘致及び誘致に係る調査及び活動を行う	目標	(調査活動)	(調査活動)	()	()	
		実績	1回	4回			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 久米島空港には給油施設が無い為、チャーター便の誘致には給油体制を整える必要があり、給油車の賃借と燃料を調達し久米島空港にて配備した。 新規航空会社の誘致活動を4回実施した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	チャーター便運航数	目標	()	(17便)	(38便)	()	(40便)
		実績		28便	14便		
	要請及び調査活動	目標	()	()	(4回)	()	(1社)
		実績			調査活動4回		
	新規航空会社の誘致体制の確立	目標	()	()	(1社)	()	(1社)
		実績			2社		
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> チャーター便誘致のため、航空会社本社及び運航管理する部署にて久米島への誘致活動と、旅行を催行する旅行社には久米島のPRを行い商品造成への協力を要請した結果、県外(静岡、名古屋、長野、徳島、島根、広島、熊本、北九州、山口)からのチャーター便14便が就航した。 【就航期間: H27.4/1~4/3、H27.11/20~11/27、H28.3/19~3/22】 平成26年度の約1.3倍の増便を見込んで実施したが、航空機材の機体点検により、機材確保が出来ず結果14便の就航に留まり目標を下回る結果となった。 給油システムの調査・調整業務(県内2件×2名、県外2件×2名)を行い、久米島空港に適する給油施設等に関する事前調査を行った。 					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・県外からの直行便及びチャーター便が就航する為には、久米島空港での給油が必要となるが、現在久米島空港には給油施設が無いことから、給油体制が整わないと路線誘致が不可能である。航空路線の拡充を図り、久米島への観光誘客を図るためには、チャーター便の誘致をはじめとする給油需要を作り出し、給油施設の整備に係る取組みが必要である。</p>	<p>・給油施設の実現には、段階的な取り組みとして①チャーター便の増便、②東京直行便の運航期間延長、③県外新規路線の誘致が必要である。</p>

今後の取り組み方針

- ・久米島町の観光誘客の目標数12万人を達成するために、定期路線だけでは限界があるのでチャーター便の誘致を図る。
- ・チャーター便の誘致に必要な久米島空港における給油体制の取組み。
- ・給油施設整備の可能性に関して関係機関や事業者を交えて調査を行う。
- ・久米島の航空路線拡充に関する調査の実施

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○航空機の給油は特殊な業務内容であったため随意契約であったが、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○事業費は計画とおりの執行であり適正な規模であった。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-① スポーツコンベンション施設機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-イ
担当部署名	環境保全課	事業実施(予定)年度 平成24~27年度	観光リゾート産業の振興
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容
 プロスポーツ等のキャンプ誘致を促進し観光産業の振興を図るため、現在、受入施設として使用している、久米島野球場関連施設の整備を実施する。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度
		(a) 当初予算額	114,900		52,000	-
(b) 予算現額	114,900		64,040	-	13,652	
(c) 増減額(b-a)	0	0	12,040	-	3,339	
(d) 繰越額	-	91,478	-	36,256	0	
A. 計(b+d)	114,900	91,478	64,040	36,256	13,652	
B. 執行済額	23,422	79,215	27,784	36,256	13,651	
うち交付金充当額	18,737	63,373	22,227	29,004	10,920	
次年度繰越額	91,478	-	36,256	-	0	
執行率(%) (B/A)	20.4%	86.6%	43.4%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	・委託料の事業内容を見直したことにより3,339千円の増額になった。 ・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
久米島野球場バックネット改修工事	目標	(委託・工事)	()	()	()
	実績	委託・工事			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	①久米島野球場バックネット改修の設計業務委託の発注。 ②久米島野球場バックネット改修工事の完了。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		目標	()	(6団体)	()	()	()
		実績		6団体			
		目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	久米島野球場の施設が充実したことにより、受け入れ体制の強化につながった。						

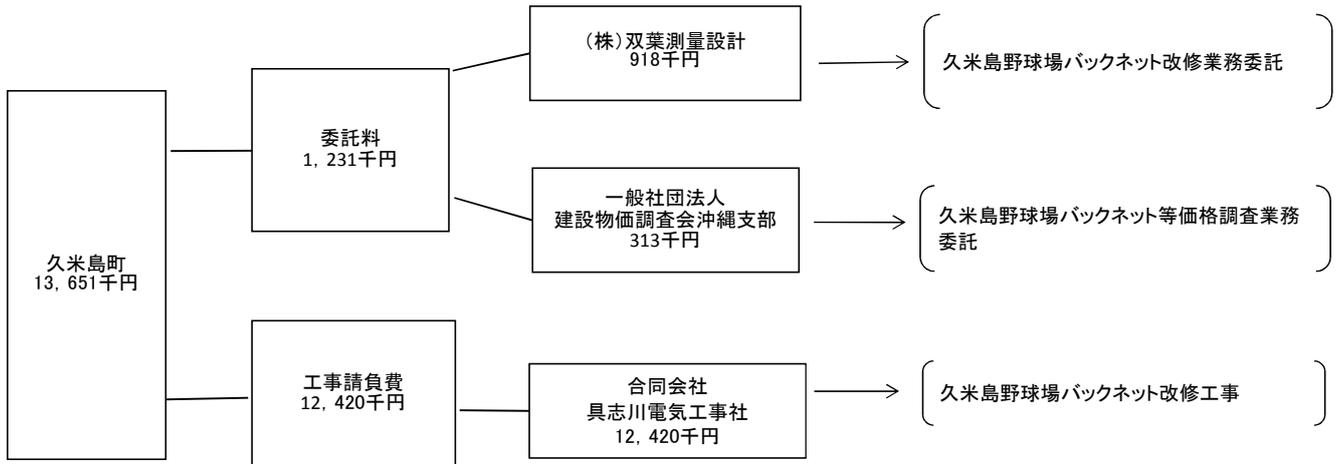
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回の施設整備により施設が充実したことで、スポーツキャンプやイベントの誘致活動を実施することができる。	年間をとおして施設が利用されるよう他施設との連携やイベント・行事等でのPRが必要である。

今後の取り組み方針

久米島野球場をスポーツコンベンションの拠点施設とし、スポーツを通じた交流を促進するほか、受入を体制の強化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,651	13,651	10,920	2,731	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者・施工業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は観光リゾート産業の振興を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-② 安心安全な観光まちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(4)-イ		
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
事業内容	安心安全な観光まちづくりを目指し、主要避難場所である具志川農村環境改善センターに非常用電源を整備する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,000	27,901	-	54,924	
		(b) 予算現額	3,000	31,474	-	50,365	
		(c) 増減額(b-a)	0	3,573	-	▲ 4,559	
		(d) 繰越額	-		19,075	-	
	A. 計(b+d)		3,000	31,474	19,075	50,365	
	B. 執行済額		2,974	12,399	18,436	50,365	
	うち交付金充当額		2,379	9,919	14,749	40,291	
	次年度繰越額		0	19,075	-	0	
	執行率(%) (B/A)		99.1%	39.4%	96.7%	100.0%	
予算の状況の説明		・事業計画の見直しにより当初予算から工事費を4,559千円減額した。 ・計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	非常用発電機 1基	目標	(設置工事)	()	()	()	
		実績	設置工事				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・町の主要避難場所である具志川改善センターに非常用電源を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	避難所の防災体制強化	目標	()	(設置工事)	()	()	()
		実績		設置工事			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・本町の主要産業である観光産業等により、来島する観光客が増加している状況にあるが、受け入れ施設であるホテル等は、ほとんどが海拔5m程度にあり、大地震・大津波等の大規模な災害が発生した場合には、具志川農村環境改善センターに多くの環境客等が避難することが予想されるため、その観光客の安心安全を確保することができた。					

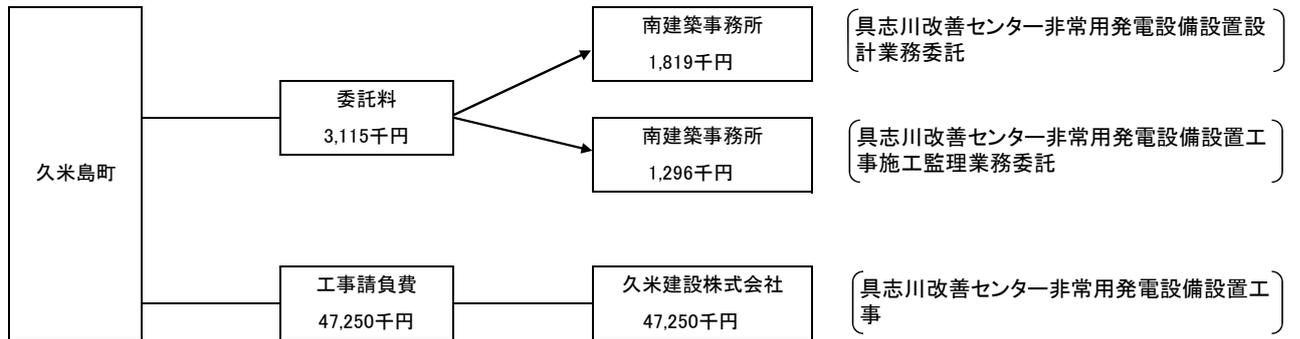
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・主要避難所に非常用発電機がなく、不便をきたしていたが施設整備したことにより安心安全な避難環境を整えることができた。 ・発電機は非常時に即対応できるよう定期的な設備点検等を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常用発電を整備した旨を周知する。 ・引き続き、防災体制の強化を図る施設整備を行う必要がある。 ・住民等が避難した際において避難生活に困らないよう、間仕切りなどによる生活空間の確保や災害時に必要な備品を備蓄し、生活に困らないよう配慮していく。 また、女性や障害のある方へも併せて配慮方法を検討する必要がある。

今後の取り組み方針

・避難所としての機能の維持を図り、災害時においても安心安全な島を形成し観光客の増加に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
50,365	50,365	40,291	10,074	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は防災体制の強化を図る上で必要な経費であり適正な規模であった。</p> <p>○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③ バス停上屋整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	快適な観光地づくりを目指し、観光施設周辺のバス停の雨天及び直射日光の強い日差し対策としてバス停上屋の整備を行う。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		8,000	12,500			
			8,806	18,224			
			806	5,724			
			0	0			
	B. 執行済額	8,806	18,224				
	うち交付金充当額	7,045	14,579				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	100.0%				
	予算の状況の説明	・昨年から懸念事項である風雨を考慮した構造(3面囲い)を採用したため、工事費が増額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況					
		26年度	27年度	28年度	29年度		
	バス停上屋整備(整備予定:3箇所)	目標	(2箇所)	(3箇所)	()	()	
		実績	2箇所	2箇所			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・観光地周辺のバス停に上屋が設置されていないので、雨天や直射日光の強い日差し対策のため、利用頻度が高い2箇所を整備した。 ・観光客等の利便性向上や観光地としてのイメージアップが図られた。 ・目標では平成26年度2箇所、平成27年度3箇所、平成28年度1箇所の計6箇所を計画していたが、占用許可条件をクリアできる箇所がなく平成27年度は2箇所ですべて完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	バス停上屋整備率:83% (整備予定:6箇所)	目標	()	(33%)	(83%)	()	()
		実績		33%	66%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・利用頻度が高いバス停上屋2箇所を整備したことにより、観光客等の利便性向上が図られている。 ・目標では平成26年度2箇所、平成27年度3箇所、平成28年度1箇所の計6箇所を計画していたが、占用許可条件をクリアできる箇所がなく平成27年度は2箇所ですべて完了した。					

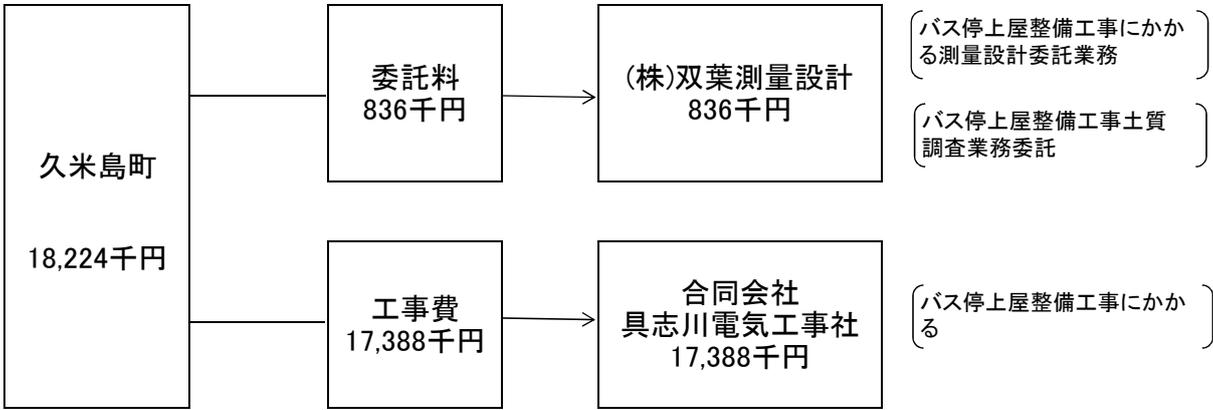
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> バス停の設置場所が私有地のため、地主との交渉、用地取得及び道路管理者との占用許可等の申請業務に時間を要するため、利用頻度や設置条件等を考慮し計画的に優先順位を決めて取り組む必要がある。 今回整備したバス停上屋は、風雨を避けられる構造で整備したため利用者の要望に応えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前にバス停利用者数の頻度を把握し、設置可能な場所の選定、占用許可申請に必要な事務作業を進めておく必要がある。

今後の取り組み方針

今後は利用者・観光客から要望があれば、占用許可条件・構造・景観にマッチするか等を再検討し事業導入を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
18,224	18,224	14,579	3,645	0



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託は少額であったため随意契約で行い、工事請負事業者は指名競争入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○風雨等を考慮した製品を選定しているため適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要な者であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 沖縄らしい風景づくり推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
	建設課			事業実施(予定)年度 平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり	
担当部署名					Ⅲ-3-(2)		
事業内容	本町の優れた景観を次世代に受け継ぎ独自の景観形成を推進するため、町景観条例に基づく景観形成に取り組む団体及び個人が実施する屋根等の外観の景観形成に有効な部分の新設及び改良に要する経費の一部を支援する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,901	4,100	4,700	4,600	
		(b) 予算現額	2,720	4,662	2,617	2,762	
		(c) 増減額(b-a)	▲181	562	▲2,083	▲1,838	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
		A. 計(b+d)	2,720	4,662	2,617	2,762	
	B. 執行済額		2,720	4,662	2,616	2,300	
	うち交付金充当額		2,175	3,729	2,093	1,840	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	
予算の状況の説明		予算減額▲1,838千円は景観形成重点地区における目標件数が2件に対し、申込件数が1件であったことによるものである。 また、不用額460千円は支援団体の活動経費の減額に伴うものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	景観活動団体支援3団体	目標	(5団体)	(2団体)	(3団体)	()	
		実績	2団体	2団体	2団体		
	景観形成支援2戸	目標	(2戸)	(2戸)	(2戸)	()	
		実績	2戸	1戸	1戸		
達成状況説明		・景観形成助成として、当初計画では景観形成重点地区から2件の赤瓦屋根葺き替え助成を予定していたが、申込みがあった1戸に対して助成金を交付した。 ・景観活動助成金については、当初3団体を目標としていたが、これまでの地域等での景観活動に対する取組実績等から活動団体に登録された2団体に対し、助成金を交付した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
	景観活動団体の支援	目標	()	(5団体助成)	(実施)	(実施)	(18団体)
		実績		2団体助成	2団体	2団体	
	景観形成の推進	目標	()	(2戸助成)	(実施)	(実施)	(18戸)
		実績		2戸助成	1戸	1戸	
	進捗状況説明		・景観形成助成については、当初目標2戸に対し、申請のあったなかで、審査した結果1戸(字仲地地区)に対し助成を行った。募集期間中の住民からの問い合わせについても、年々増加しており、昨年に引き続き町広報誌、FMくめじま等を活用し、町民へ周知活動を行う。 ・景観活動団体助成については、当初目標は3団体であったが、審査の結果2団体への助成を行った。助成団体のこれまでの活動実績が地域住民からも評価され、徐々に申込み団体も増加していることから、引き続き、周知徹底を図り新規助成団体を増やしていけるような取組を行う。				

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-② 個性豊かな文化の振興事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-イ		
	教育委員会			事業実施(予定)年度 平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化の担い手の育成	
担当部署名					Ⅲ-3-(2)		
事業内容	伝統芸能の保存及び後継者育成を推進し地域伝統文化の振興を図るため、文化振興の活動を行なっている団体の行う保存継承イベント開催を支援する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	4,255	3,908	1,717	1,649	
	(b)予算現額	3,101	3,908	1,717	1,649		
	(c)増減額(b-a)	▲1,154	0	0	0		
	(d)繰越額	-	-	-	-		
	A.計(b+d)	3,101	3,908	1,717	1,649		
	B.執行済額	3,101	3,468	1,205	1,494		
	うち交付金充当額	2,480	2,775	964	1,195		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	88.7%	70.2%	90.6%		
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・不用額155千円は、事業費見直しによる補助金の減額である。(芸能発表会費に掛かる経費の減によるものである。) ・当初計画していた事業内容はすべて実施したほか、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	民俗芸能の保存・継承・後継者育成	目標	(3団体)	(3団体)	(実施)	(実施)	
		実績	6団体	3団体	3団体	3団体	
	民俗芸能発表会の開催	目標	(1回開催)	(1回開催)	(実施)	(実施)	
		実績	1回開催	1回開催	1回開催	1回開催	
	民俗芸能団体の交流事業	目標	(-)	(1団体)	(実施)	(実施)	
実績		-	9団体	3団体	1団体		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会までに新たな1団体の掘り起こしを行うとともに、保存継承を取り組む2団体へ衣装購入など補助を行った。 ・保存継承育成、発表会の開催を支援し、団体交流事業を実施し目標を達成した。 ・交流事業で招聘した団体は1団体であるが4演目を披露し、多くの町民が満足した。また、保存継承のあり方などについて意見交換も行われ、当初の目標を達成した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)
	3団体(山里、仲村渠、兼城)の強化	目標	(3団体)	(3団体)	(3団体)	(3団体)	(3団体)
		実績		3団体	3団体	3団体	
	出演者、来場者	目標	(130人 550人)	(130人 600人)	(130人 600人)	(130人 600人)	(150人 700人)
		実績		143人 400人	117人 200人	139人 400人	
	民俗芸能団体の交流事業(八重山)	目標	(-)	(25名)	(24名)	(27名)	(25名)
実績			149名	21名	25名		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年11月28日(土)、具志川改善センターにおいて、第5回久米島町民俗芸能発表会を開催した。 ・出場者は139名で目標を達成できた。来場者においては400名と前年度より大幅に増加したが、目標数値には及ばなかった。 ・目標を下回った要因としては町民の民俗芸能に関する興味・関心が薄れてきているのがあげられる。 ・団体の交流事業としては25名で目標を達成できなかった。目標を下回った要因としては、当初交流予定の2名が急遽都合により参加できなくなったためであるが、目標は達成できたと考える。 						

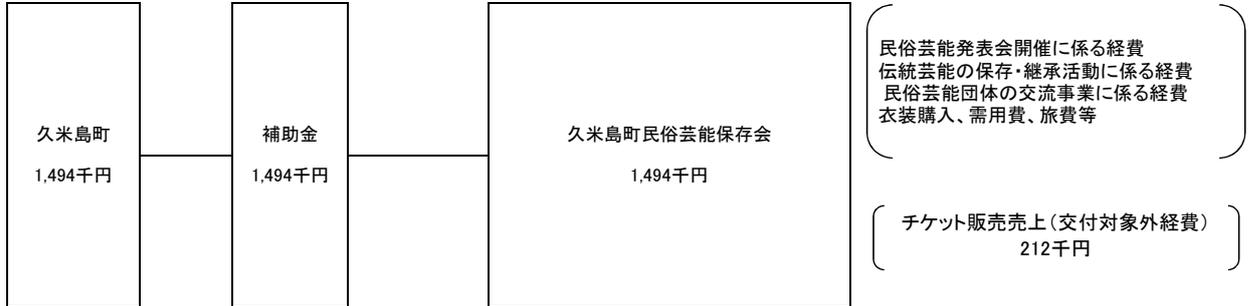
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 発表会の来場者については前年度より大幅に増加したが、目標数値には届かなかった。 伝統芸能(踊り手、地謡)の後継者育成も課題であるが、着付け・髪結い・メイクアップ(化粧)の専門家の育成も課題としてあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表会のプログラムを見直すことにより、若い世代(中高生)またはその保護者層が来場したが、まだまだ少数であった。今後ともどの世代でも興味をもてるプログラム内容を継続していくことにより、効果が出てくると考える。 着付け等化粧専門家の育成については、踊り手など団体や地域で携わっている方を中心に講習会を開催し、出演するだけでなく、裏方側でもできるような人材を育成をしていく。

今後の取り組み方針

- ・昨年度に引き続き、発表会プログラムについては、どの世代でも興味を持てるよう検討する。
- ・観光協会や関係機関と連携を図り、島外にもイベントを周知し、観光客等が島の伝統芸能に触れる機会を創出する。そのことにより、来場者数の増加にもつなげる。
- ・団体主催の着付け・髪結い講習会を定期的に開催し、伝統芸能後継者育成と同時に着付け・髪結いの専門家の育成にも取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
1,706	1,494	1,195	299	212



資金の 用途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は芸能関係者によって組織され、実績、知識等を勘定した上で選定しており妥当であったと考える。 ○不用額(減額)は、事業内容見直しによる減であり適正な規模であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		久米島町					
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③ 文化遺産保存活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部署名	久米島博物館	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
事業内容	豊かな自然とともに、数多く残されている地域色豊かな歴史文化等の文化遺産を活かした観光振興を図るため古文書(博物館資料)の修復及び写真資料のデジタル化を行い、公開活用を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,587	15,111	—	8,124	16,519
		(b) 予算現額	2,721	13,474	—	7,835	15,957
		(c) 増減額(b-a)	134	▲1,637	—	▲289	▲562
		(d) 繰越額	—	2,019	2,019	0	0
		A. 計(b+d)	2,721	15,493	2,019	7,835	15,957
		B. 執行済額	2,721	11,455	2,019	7,835	15,956
		うち交付金充当額	2,176	9,164	1,522	6,268	12,765
		次年度繰越額	0	2,019	—	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	73.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・予算減額562千円は、入札残によるものである。 ・予定していた修復資料の劣化度合いが当初の想定より著しく、修復に時間を要することから、目標数を減らし、最も劣化の著しい資料から優先的に修復するよう対応した。業務内容の変更はなく適正であったと考えている。 						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	古文書の修復、翻刻、口語訳した件数	目標	(110件)	(160件)	()	()	
		実績	173件	37件			
	写真資料デジタル化	目標	()	(40,000点)	()	()	
実績			36,000点				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としていた修復資料の劣化度合いが想定より著しく、修復に時間を要することから、最も劣化の著しい資料から優先的に修復を行ったため、目標数を達成できなかった。 ・写真デジタル化については、当初40,000件の予定であったが、重複写真の統一及び対象外写真の除外により写真資料36,000点をデジタルデータ化した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	古文書の修復、翻刻、口語訳した割合(1,625件中455件(累計)の修復)	目標	()	(14%)	(28%)	()	(100%)
		実績		18%	20.5%		
	写真資料デジタル化率	目標	()	()	(100%)	()	()
		実績			90%		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・古文書資料の修復事業は、年次の修復計画を作成し、劣化が進み状態の良くない資料を優先的に修復を進めている。今年度は目標としていた修復資料の劣化度合いが想定より著しく、修復に時間を要することから、目標数達成には年度内完了が困難となるため、目標数を変更し、最も劣化の著しい資料から優先的に修復を行った。 ・写真デジタル化については、重複写真の統一及び対象外写真の除外により件数は減ったものの、対象となる資料については全てデジタル化できた。 						

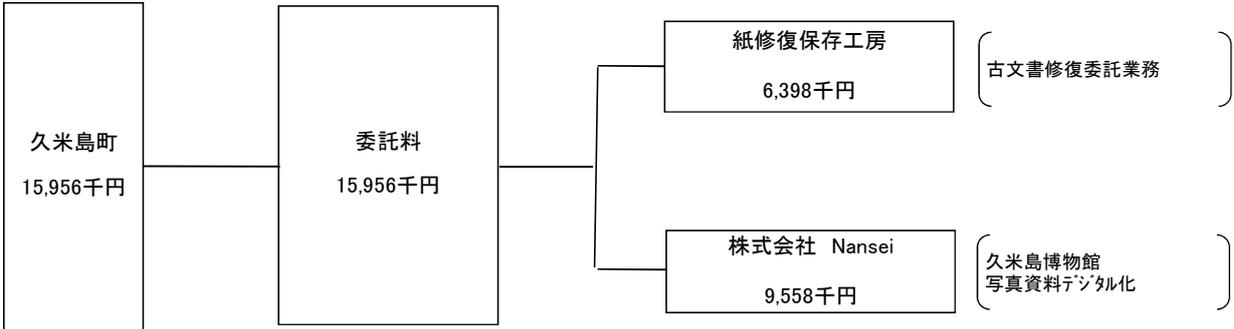
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・予定より修復に時間を要する場合は想定し、履行期間に余裕をもつ必要がある。 ・修復資料によっては表層部より中心部の劣化が著しいものもあり、一目では劣化状況が把握しにくいものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より効率的に事業を推進するため、修復計画を策定する必要がある。 ・一目では劣化状況が把握しにくい資料もあることから、1件1件劣化度合いを調査する必要がある。 ・整備した資料の展示方法や企画展の開催を検討し、多くの観光客や町民に公開する必要がある。

今後の取り組み方針

・これまで以上に事前準備に努め、より早期に事業執行できるよう計画を立てて行く必要がある。また、成果品については、適正な保存・管理に努めつつ、展示会や学術利用に寄与するなど利活用を図って行く。
 ・デジタル化した写真資料は久米島博物館において企画展を開催し多くの観光客、町民に観覧いただく他、現在編纂中の「久米島町史」にも掲載を予定している。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,956	15,956	12,765	3,191	0



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○古文書修復委託は特殊な業務内容であったため随意契約であったが、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		久米島町						
平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-④ 久米島現代版組踊り創作事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア			
	教育委員会			事業実施(予定)年度	平成24~28年度	文化資源を活用したまちづくり		
担当部署名				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)			
事業内容	若い世代の地域づくりへの積極的な参画を促進し魅力ある観光地形成を図るため、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた創作現代版組踊りを実演する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,088	-	7,989	6,639	6,962	
		(b)予算現額	2,088	-	9,290	6,639	6,962	
		(c)増減額(b-a)	0	-	1,301	0	0	
		(d)繰越額	-	2,088	0	0	0	
		A.計(b+d)	2,088	2,088	9,290	6,639	6,962	
	B.執行済額		0	2,016	9,290	6,638	6,961	
	うち交付金充当額		0	1,612	7,432	5,310	5,568	
	次年度繰越額		2,088	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		0.0%	96.6%	100.0%	100%	100%	
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容すべてを実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みても適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況					
			26年度	27年度	28年度	29年度		
	若い世代による創作現代版の組踊り作成40名~50名参加	目標	(40から50名参加)	(40から50名参加)	()	()		
		実績	41名	39名				
		目標	()	()	()	()		
実績								
達成状況説明	・高校生、中学生計39名で2月に昼・夜2回の公演を開催した。 ・事業開始から活動に参加していたメンバーが高等学校卒業を迎え、平成26年度末をもって約半数(19名)が卒団し、多くの新メンバー加入が必要となったが、当初は活動目標とする人数(40~50名)のメンバーが集まった。しかしながら、途中、進学準備や学校活動との事情により、活動を辞退する生徒がおり、活動目標にわずかに足りない39名での公演開催となった。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(33年度)	
	ふるさとの歴史や文化を地域の人々が再発見し、その誇りと魅力を自発的に発信していく新たな歴史的文化的観光資源を創出する。	目標	()	(観光資源の創出)	(観光資源の創出)	(観光資源の創出)	()	
		実績		観光資源の創出	観光資源の創出	観光資源の創出		
	【参考指標】現代版組踊公演来場者		目標	()	(観客300名)	(観客800名)	(観客800名)	()
			実績		観客800名	観客810名	観客750名	
進捗状況説明	・久米島の中高校生39名によって、久米島の歴史的遺産にスポットをあてた創作現代版組踊りを公演した。 ・久米島の歴史的按司の「笠末若茶良」を題材に取り組んだ現代版組踊りは、町民等750名が観覧し高い評価を得た。 ・「久米島まつり」や「久米島マラソン」「車エビフェスタ」等の島外からの参加者(観光客)が多数訪れる催しにも出演依頼を受け、ダンス等を披露し、地域(島)の歴史的文化として発信することができ、観光資源創出のきっかけとなる取組ができた。 【総括=達成状況】観光客等が多数訪れる催しに出演し、歴史的地域文化として披露することで外部への発信をすることができたが、観光資源(誘客やプログラム、商品化等)としての確立には、至っていない。(活動を運営・支援する地域組織の結成等、環境整備が必要)							

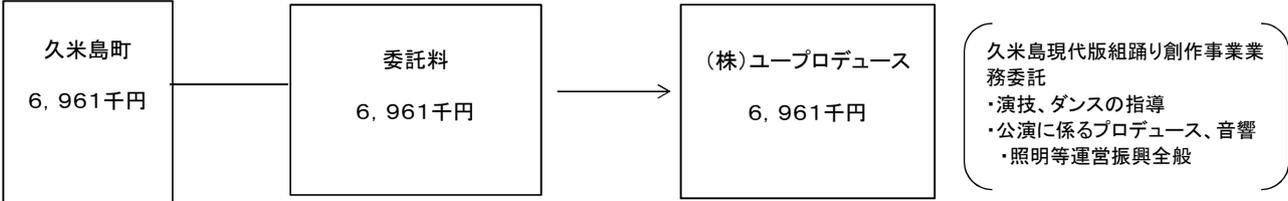
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①事業として取り組んでいる「久米島現代版組踊り」は、本町の歴史を紐解き、史実化した舞台公演で、地元中高生が出演・参加しているが、高校生が卒業と同時に進学・就職で島を離れる地域事情から、取組の継続・展開に際し、メンバーの変動がある。 ②公演で高評を得た成果として、地域外(沖縄本島や県外)での公演を望む声が、本町出身の郷友会の方々を中心に寄せられるようになったが、費用(予算)の問題や通年公演を行える状況にない等の課題がある。	①出演対象である中高生(中学1年～高校3年生)のメンバー構成が偏らないように、毎年満遍(各学年一定人数)なくメンバーを確保し、取組(活動)が円滑に継続・展開出来るように努める。 ②活動を運営・支援する地域組織を立ち上げ、活動費用の捻出や安定した舞台公演が実現できるような環境整備に取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

・取組の検証で掲げたメンバー確保の改善や運営組織の立ち上げの展開を推進・強化し、文化観光資源としての実現・確立に向け取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,961	6,961	5,568	1,393	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託は特殊な業務内容であったため随意契約であったが、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は無く適正な規模であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 久米島町

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-① 英語指導員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度 平成24~33年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容 小学校における外国語活動及び国際理解教育を充実させるために英語指導員を配置する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	1,483	2,482	2,568	2,152	
	(b) 予算現額	1,293	2,482	2,120	2,152	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 190	0	▲ 448	0	
	(d) 繰越額	—	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	1,293	2,482	2,120	2,152	
	B. 執行済額	1,293	2,095	2,119	1,961	
	うち交付金充当額	1,033	1,676	1,695	1,568	
	次年度繰越額	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	84.4%	100.0%	91.1%	
	予算の状況の説明	・不用額191千円については出勤日数の都合によるものであるが、当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
英語指導員配置数:小学校1名 小学校3年生から6年生(3、4年生120時間、5、6年生210時間)で実施する。	目標	(小学校1名)	(小学校1名)	(小学校1名)	(小学校1名)
	実績	小学校1名	小学校1名	小学校1名	小学校1名
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	小学校3年生～小学校6年生において予定通り実施することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			英語指導員の配置 小学校:1名 町内全6小学校の児童が英語を活用してコミュニケーション力を図る。	()	(120時間)	(コミュニケーション力の向上)
	目標	()	()	()	()	
	実績		120時間	コミュニケーション力の向上	コミュニケーション力の向上	
	目標	()	()	()	()	
	実績					
進捗状況説明	・中学年においては、英語を使った簡単な会話(名前や出身地、好きなものを尋ねる)ができるようになった。1~99までの数字を英語で言えるようになり、年齢や時刻、日付を英語で伝えたり、尋ねたりできるようになった。 ・高学年については、授業で学んだ英単語や英語表現を使って、自分の考えや意見を、スキットやプレゼンテーションで発表できるようになった。(例:昔話を英語で演じる。久米島を英語で紹介する。)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年における英語を活用した授業実践が必要である。 ・小学校から中学校への移行に伴う外国語活動のスムーズな接続が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の英語への興味関心を向上させる取り組みを検討する。 ・低学年における英語を活用した授業実践を時間割を調整し実施を検討する。

今後の取り組み方針

- ・担任教諭とのミーティング時間を確保し、児童の個々に合った授業改善に努める。
- ・英語指導員の研修会等を増やし、英語教育の充実を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,107	1,961	1,568	393	146



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先及び予算規模については、設置規程に基づくものであり妥当であったと考える。 ○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 久米島町

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-② 基礎学力向上学習支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度 平成26~33年度	沖繩振興基本方針該当箇所
			確かな学力を身につける教育の推進
			Ⅲ-3-(1)

事業内容 確かな学力を身につける教育の推進を図るため、学習未定着率の高い小学校へ補助指導員を配置し、国語・算数を中心とした基礎学力向上支援を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	6,242	3,817			
	(b) 予算現額	3,052	4,333			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,190	516			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	3,052	4,333			
	B. 執行済額	3,051	4,253			
	うち交付金充当額	2,441	3,402			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	98.2%			
	予算の状況の説明	・当初、教員免許を持たない支援員を配置していたが、年度途中で退職したため、再度募集を行い教員免許保持者の応募が有り配置した。その差額分516千円を補正で増額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
基礎学力向上学習支援員配置数 (小学校2校に各1名)	目標	(2名配置)	(2名配置)	()	()
	実績	2名配置(1名は2学期から)	2名配置		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・小学校2校に学習支援員を配置することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		基礎学力向上学習支援員を小学校へ2名配置し、県到達度調査や全国学力学習状況調査等、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	目標	()	(実施)	(小3-6.6% 小5-3.7%)	()
		実績		小3-6.6% 小5-3.7%	小3-4.8% 小5-14%		
	目標	()	()	()	()	()	
進捗状況説明	・県到達度調査にて小学校3年生の30%未満の割合が前年度より1.8%減少した。 ・小学校5年生は、前年度より割合が多く目標を達成することが出来なかった。原因として算数問題が難しく、県の平均正答率も前年度を21.8%下回っている。						

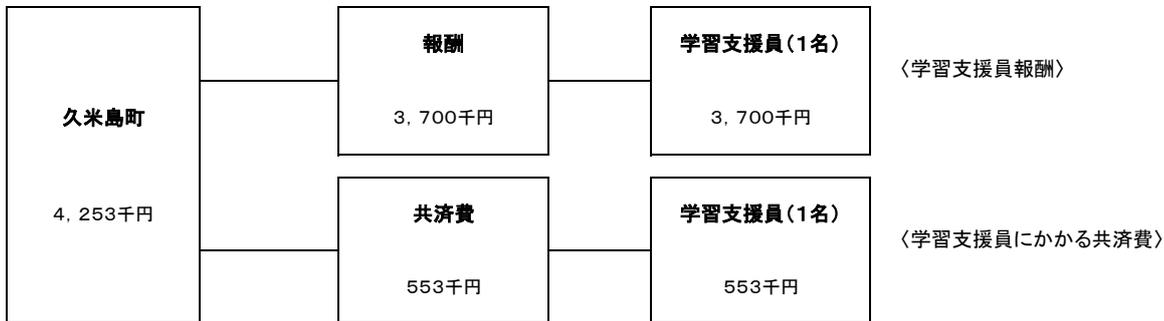
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援員の採用については、教員免許保持者や要経験者を条件のうえ、人格面等を配慮して採用しているが、人的確保に困難をきたしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全世帯への募集チラシの配布や、町のホームページへの掲載により島外からも募集を行う。

今後の取り組み方針

・授業に遅れがちな児童にきめ細やかな支援を行えるよう、支援体制の拡充を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,282	4,253	3,402	851	29



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支出先及び予算規模については、設置規程に基づくものであり妥当であったと考える。 ○支援員は公募により実績、知識等を勘案した上で選定しており、賃金については適正な手続きで執行された。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③ 特別支援教育支援員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度 平成26~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所 Ⅲ-3-(1)

事業内容	特別に支援を要する児童に対し個別指導や放課後の補習、介助や安全確保等教師と連携した支援体制の充実を図るため、特別支援員を各学校へ派遣する。
------	---

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	26,797	28,655			
	(b) 予算現額	24,117	29,160			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,680	505			
	(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)	24,117	29,160			
	B. 執行済額	24,116	29,124			
	うち交付金充当額	19,293	23,298			
	次年度繰越額	0	0			
	執行率 (%) (B/A)	100.0%	99.9%			
	予算の状況の説明	・当初、特別支援員配置人数を14名で予定していたが、学校から診断書の提出があり1名増員した。その差額分505千円を補正で増額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
特別支援教育支援員配置数	目標	(小学校10名 中学校2名)	(小学校11名 中学校3名)	()	()
	実績	小学校10名 中学校2名	小学校13名 中学校2名		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	・各学校の実情に合わせ、小学校に特別支援教育支援員を13人、中学校に2人を配置し対象児童生徒に対して適切な支援を行うことができた。 特別支援員研修会を多く実施したことにより、情報交換の機会をもつことができ、児童生徒に対する対処方法を共有することができた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
			児童生徒の総合的な学力向上に繋げる。県到達度調査や全国学力学習状況調査等、正答率30%未満の児童生徒の数を減少させる。	目標	()	(実施)	(小学生・5.1% 中学生・19.4%)
		実績		小学生:8.5%→5.1% 中学生:20%→19.4%	小学生・6.7% 中学生・27.5%		
	目標	()	()	()	()	()	
進捗状況説明	・全国学力学習状況調査において、小学生が全科目で県平均を上回る。 ・全国学力学習状況調査において、小中学生の30%未満の児童生徒数が前年度より小学生が1.6%・中学生が8.1%増となっている。小学生においては、算数B問題、中学生においては、数学B問題に課題があり、全国及び県平均正答率とも低いことから問題が難しいと思われる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援員の研修を充実し、質の向上を図り児童生徒の個々に合った支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、学校、特別支援員が連携を取り合い、児童生徒への支援の在り方を検討する。

今後の取り組み方針

- 個に応じたきめ細やかな支援を行い、支援体制の拡充を図る。
- 特別支援員の資質の向上を図る目的で、研修会等を実施し、情報交換や支援の方法をお互いに共有化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
29,124	29,124	23,298	5,826	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○支援員は公募により実績、知識等を勘案した上で選定しており妥当である。 ○予算規模については事業内容に見合っており適正な手続きで執行された。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	久米島町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-④ 児童・生徒各種大会派遣支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部署名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成27~33年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容	児童・生徒の多様な能力と心身の発達や育成を図るため、課外活動として島外で開催される各種大会への派遣旅費について支援を行う。
------	---

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a) 当初予算額	4,533				
	(b) 予算現額	3,533				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,000				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	3,533				
	B. 執行済額	3,269				
	うち交付金充当額	2,615				
	次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)	92.5%				
	予算の状況の説明	当初、各部活動トーナメント登録可能人数にて積算していたが、実際の加入部員数が下回り、1,000千円減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
		管内中学校生徒876名参加	目標 (派遣生徒876名)	()	()
	実績	630名参加			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	目標派遣人数より実績派遣人数は下回った、その要因は当初予算を大会の登録可能人数にて積算を行っていたが、実際の部員数の減に伴い派遣人数も下回った。しかし、参加した大会等は52回の各種大会へ派遣した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		生徒派遣(876名)により多様な能力と心身の発達や育成を図る	目標 ()	(派遣生徒876名)	()	()	()
			実績	派遣生徒630名			
			目標	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	52回の各種大会へ派遣した事により児童・生徒の多様な能力と心身の発達や育成を図れた。しかし、各大会等の補助率は滞在日数に応じて補助率が低くなることから補助内容の検討が必要となる。(平成27年度の実施状況により滞在日数が長くなることにより一人あたりの支援(補助)の割合が異なることが判明した。今後、公平・平等に支援ができるよう補助内容を見直す必要がある。)						

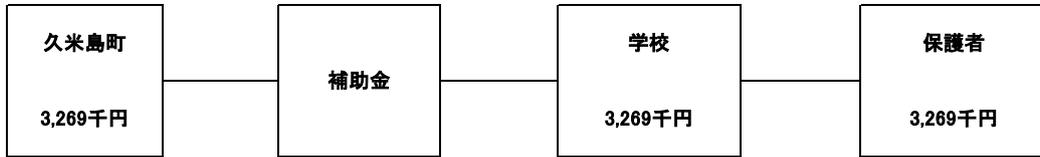
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・文化活動やスポーツの楽しさ・喜びを味わい学校生活に豊かさをもたらすことや、より高い水準の技能や記録に挑戦するには、各種大会への参加機会を維持・拡大しなければならない。離島である本町において、島外で開催される各種大会等に参加するには、多額の費用が発生する。各種大会等へ派遣を行うことでの経済的負担の軽減を図るため、生徒1名につき5千円(同一大会2回目(決勝や順延・地区代表)派遣の場合8千円)の補助を行う。</p>	<p>・宿泊日数が増えることに伴い補助率が低くなる事から補助内容の検討が必要である。 ・課題の改善として、宿泊費への補助の検討を行う。</p>

今後の取り組み方針

平成28年度に向け補助内容の改定を行う。(航空(船)費+宿泊費)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
3,269	3,269	2,615	654	0



生徒1名に5千円の補助、同一大会2回目(決勝や順延・地区代表)派遣は生徒1名に8千円の補助

資金の流 れ、費目 の点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は学校であり妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については事業内容に見合っており適正な手続きで執行された。
	△	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者(保護者)との負担関係については、次年度において補助内容を検討する。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	久米島町
------	------

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-⑤ 教育ソフト導入事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成27~28年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容
 小学校において主要教科のデジタル教科書及び操作性に優れたノートPCを購入し、デジタルテレビや電子黒板を利活用し、児童の理解度を高め、わかる授業で学習意欲を高め学力向上を図る。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	18,665				
	(b) 予算現額	20,959				
	(c) 増減額 (b-a)	2,294				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	20,959				
	B. 執行済額	20,582				
	うち交付金充当額	16,465				
	次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)	98.2%				
予算の状況の説明	当初端末機調達を39台としていたが7台追加したため、2,294千円増額した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		27年度	28年度	29年度	30年度
		ソフトウェア購入	目標 (6小学校×6学年×4教科)	()	()
	実績	6小学校×6学年×4教科			
	操作端末購入	目標 (ノート型PC:39台)	()	()	()
	実績	ノート型PC:46台			
達成状況説明	操作用端末機については当初普通教室に配置した操作機で理科室においても運用する見込みであったが、デジタル教科書ソフトの拡張機能を用いた自作コンテンツの作成や書画カメラ、電子黒板といった普通教室にはない理科室独自の外部デバイスの利用が当初導入台数だけでは運用できないことや、修理や設定作業のため利用できなくなった場合を考慮し、予備機を7台追加したことにより増加となった。				

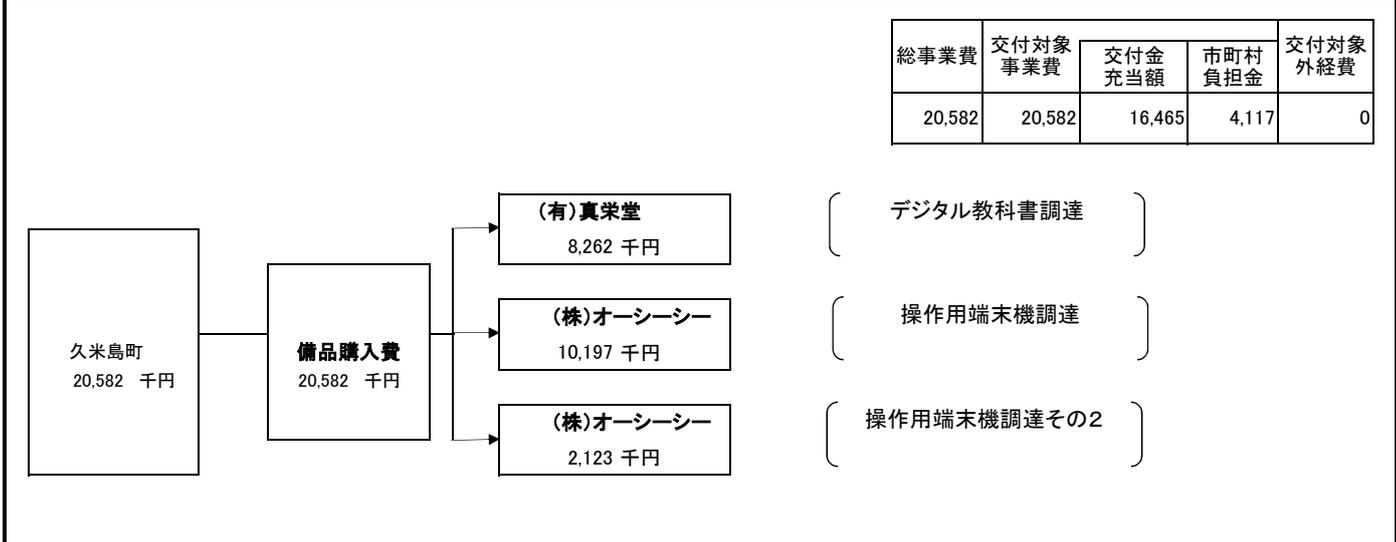
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
		児童生徒の総合的な学力向上に繋げる。沖縄県到達度調査の正答率過去3年間平均値との差	()	(国語66.4→67.0 算数67.1→67.5)	()	()
		実績	国語66.4→60.35 算数67.1→59.45			
		目標	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	成果目標で当初の目標を下回ってしまったが、県の平均値もマイナスとなっていることから問題の難易度が上がる等一概に学力が低下したとは言えない。相対的に評価するため指標を県平均値との差とすると、H26年度が0.26ポイント、H27年度が1.36ポイントと前年度比で1.10ポイント伸びたといえる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>操作研修: 教科書販売業者及び端末機メーカーによる操作講習を実施し、スムーズな導入と教師のスキルアップにつとめた。</p> <p>不具合対応: 機器の不具合が出た場合に迅速に対応できるよう製造メーカーとの連絡体制を整えた。</p> <p>活用促進: 積極的に活用するよう校長会や学校訪問時に指導した。</p>	<p>左記の取り組みを強化するとともに、教師や生徒へアンケートを実施し、実態の把握と円滑な運用に資する。</p> <p>学校内の通信環境の影響で操作器のアップデートに不具合が出るケースが増えてきた、今後適正な環境を整え、効果的な運用と機器の保全につとめる。</p>

今後の取り組み方針

H28年度は、小学校の教室数の増加があるのでその対応を検討する。
また、中学校において本事業を導入するので、H27年度小学校での導入実績を生かし、より効果的な運用とする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○受注業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○数量は現状にそうもので、機器の仕様と価格においても一般的にみて妥当であると考えます。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 久米島町

平成27年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

Table with 4 columns: 事業番号・事業名 (7-6 久米島町地域支援交流学習センター整備事業), 沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所 (第3章-5-(3)-ウ), 担当部課名 (教育委員会), 事業実施(予定)年度 (平成27年度), 沖縄振興基本方針該当箇所 (III-3-(1))

事業内容 将来を担う人材育成、地域活性化、人口増及び生徒の学力向上を目的とした久米島町地域支援交流学習センターを整備し、島外から多くの留学生を受入れることで地元出身の生徒及び地域との交流を通じてお互いに刺激し合う環境を構築する。

実施方法 ■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()

Table with 7 columns: 27年度, 28年度, 29年度, 30年度, 31年度. Rows include: 予算額・執行額 (単位:千円) (「交付金」+「市町村負担」ベース), 予算の状況 (a)当初予算額, (b)予算現額, (c)増減額 (b-a), (d)繰越額, A.計 (b+d), B.執行済額, うち交付金充当額, 次年度繰越額, 執行率 (%) (B/A), 予算の状況の説明

Table with 5 columns: H27活動目標(指標), 27年度, 28年度, 29年度, 30年度. Rows include: 地域支援交流学習センターの①設計・施工監理, ②改修工事, ③土地・建物購入, ④備品購入. Includes 達成状況説明: 平成27年3月地域支援交流学習センターの施設改修工事完了。

Table with 7 columns: H27成果目標(指標), 基準値(年度), 27年度, 28年度, 29年度, 目標値(年度). Rows include: 整備により①島留学生受入体制の確保, ②人材育成拠点施設の確保. Includes 進捗状況説明: 人材育成拠点施設及び島留学生(男子12名、女子12名)の受け入れ体制の確保ができた。

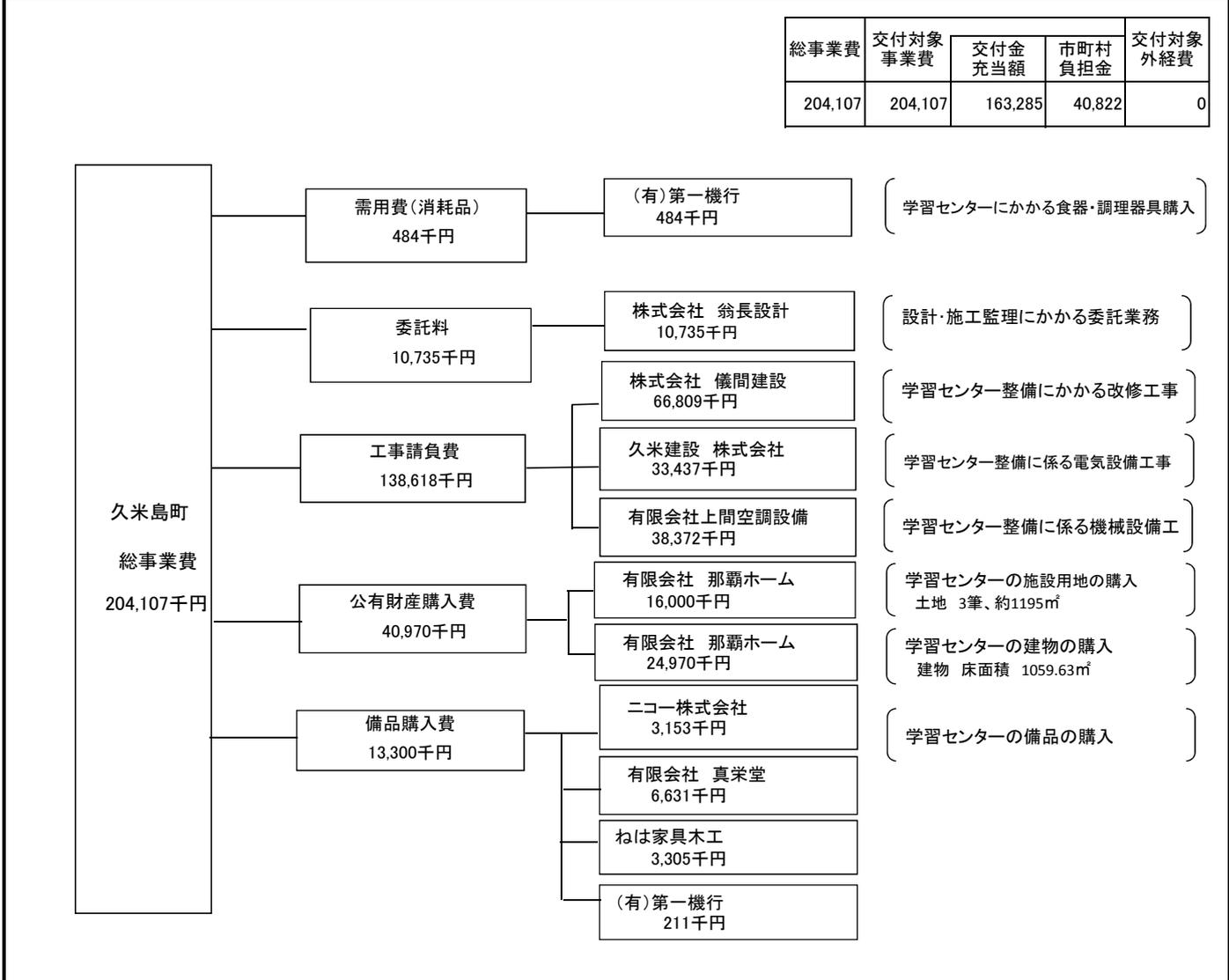
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・町の将来を担う人材育成、地域活性化、人口増及び生徒の学力向上を目的とした久米島高校の魅力化事業のひとつとして島留学を行っているが、受入体制が整備されておらず受入の必要人数分を確保するのが困難な状況であった。</p> <p>生徒が快適に過ごせる学習環境が整った久米島町地域支援交流学習センターが整備されたことにより、島外から多くの留学生を受入れることができる体制が整った。</p> <p>また、地元出身の生徒及び地域との交流学習会、公営塾に活用できるため魅力化事業の推進が図られる。</p>	<p>・定員を超えた場合に他室を受け入れ寮室に代替え出来るようになってはいるが、その都度予算や寮室の準備をしなければならないので次年度以降定員について検討しなければならない。</p>

今後の取り組み方針

地域支援交流学習センターを利用し約24人(年8人の3年分)の留学生を受け入れと交流学習センター(公営塾)を活用し学力及び社会人基礎力の向上を図る。

島留学者数 : 8人/年
 通塾生徒数 : 60人/年
 交流学習会 : 12回/年
 交流学習者数:180人/年

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○事業受託者は町の指名参加資格に登録している業者で、これまでの実績等を鑑み選定し、入札により執行しているのが妥当である。</p> <p>○予算規模については事業内容に見合っており適正な手続きで執行された。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものであり、支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	